

聖学院大学出版会

図書目録

2019

pietas et scientia

ἡ ἀλήθεια ἐλευθερώσει ὑμᾶς

Seigakuin
University Press



**SEIG.
PRESS**

聖学院大学出版会は、大学の教育・研究活動を学外に拡げ、その学術・文化的使命を果たすために、1991年4月に設立されました。

聖学院大学出版会は、次のような出版活動を行います。

(1) 学校法人聖学院は、プロテスタント・キリスト教の精神と文化の伝統を継承する学校であり、キリスト教文化、キリスト教教育の発展に寄与することを考慮する。本学の学術・研究支援、研究成果の公開、学術出版活動と学術広報を主目的として、研究・教育ならびにアカデミックステイタスを向上させることを趣旨とする。

(2) 「聖学院大学の理念10カ条」「建学の精神」「聖学院の歴史」を遵守し、一人ひとりのことを大切に、人間としての成長を促すという教育姿勢に基づき、学術的かつ国際的、創造的かつ総合的学問の進展をはかる出版活動をする。

また、次のような出版物を刊行します。

① 学校のカリキュラムに即した講義テキスト。

特にキリスト教学校の「聖書科」教科書。

② 研究の成果としての学術書。

③ University Extension の趣旨に基づく学術的啓発書。

④ 学生・生徒の人生の伴侶となるような教養書。

⑤ キリスト教思想、などの専門書。

⑥ その他、新しい時代に必要とされる選定書。

2019年6月

聖学院大学出版会



聖学院大学出版会は出版会のマークとして、FOUR-L を用いています。これは聖書に数多く出てくる言葉 Light, Life, Love, Liberty の頭文字 L で十字架を形作って、デザインしたものです。

聖学院大学出版会

出版図書目録 2019 年版

SEIG PRESS

目次

哲学・思想	2
宗教・キリスト教	6
キリスト教概説	6
キリスト教思想	8
日本のキリスト教	13
外国歴史	15
社会科学	17
教育・芸術・文学	22
福祉・心理	24
福祉の役わり・福祉のころ	26
臨床死生学研究叢書	28
スピリチュアルケアを学ぶ	30
聖学院大学研究叢書	32
A.D.リンゼイ著作シリーズ	35
ヴェリタス叢書	36
Veritas Books	37
<i>A Theology of Japan Monograph Series</i>	38
聖学院ゼネラルサービス出版	41
品薄書目一覧	43
品切書目一覧	44
書名索引	45
著訳編者名索引	47

価格は本体価格＋税で表示、新 ISBN コード番号 13 桁、カッコ内数字は刊行年。

R・ニーバー 著

武田清子 訳

光の子と闇の子

デモクラシーの批判と擁護

品 簿

四六判 210 頁 本体 2136 円＋税
978-4-915832-03-1 C0016 (1994)

アメリカの政治倫理学者、R.ニーバーの主著の一つである本書は、デモクラシーという、現代世界において、再考を求められている思想原理を批判し、擁護する。権力が対立し、政治と経済が相剋する現実にあつて、正義と自由を確立するためには、いかなる指導原理が存在するのか。人間の悪の問題の把握において深い洞察を欠いているマルクス主義、デモクラシー思想の楽観主義を批判し、キリスト教思想に基づくデモクラシー原理の正当性を弁護する。(正誤表有)

ジェームズ・L・アダムズ 著

柴田史子 訳

自由と結社の思想

ヴォランタリー・アソシエーション論をめぐって

四六判 340 頁 本体 3800 円＋税
978-4-915832-17-8 C3012 (1997)

アメリカの著名な神学者・社会倫理学者、ジェームズ・ルーサー・アダムズの社会理論・社会倫理に関する主要論文集。本書が提起する問題は、「自由主義」と「自由主義的宗教」の再検討にとっても、現代の人間の自己理解にとっても、また人間と共同体、神と人間性、歴史と社会倫理の関係について展開されている学問的論争にとっても有効性を持つ問題である。

永岡薫 編著

イギリス・デモクラシーの擁護者A・D・リンゼイ

その人と思想

A 5 判 398 頁 本体 5200 円＋税
978-4-915832-20-8 C3031 (1998)

リンゼイは、E.パーカーと並ぶ 20 世紀におけるイギリス政治哲学者の双璧で、オックスフォード大学の副総長もつとめたが、わが国では彼のイギリス・デモクラシー論については知られているものの、政治哲学の基礎にある学問の拡がりについてはほとんど知られていない。本書はリンゼイのひととなり幅広い思想を多彩な執筆者によって紹介した初の研究書である。リンゼイの目指したもの／リンゼイのデモクラシー思想(ドルシラ・スコット)。(平成 9 年度文部省科研費交付図書)

エーミル・ブルンナー 著

寺脇丕信 訳

正義

社会秩序の基本原理

A 5 判 432 頁 本体 5800 円＋税
978-4-915832-25-3 C1012 (1999)

正義とはなにか。実証主義と相対主義の中に国家や法の正義の理念は崩壊したのか。キリスト者として、スイス人として、ヨーロッパ人として、世界市民として、正義の原理を考察し、認識し、正義が共同社会の中で、いかに適用されるべきかを 21 章にわたって論じる。序論 第 1 章西洋における正義の理念の崩壊。第 1 部基礎編／第 2 章本研究の意義、第 3 章正義の「場」、第 4 章正義と法、第 5 章正義と平等、第 6～15 章、平等の根拠ほか。第 2 部各論 (16～21 章)。

パウル・ティリッヒ 著
大木英夫、相澤一 訳

宗教の未来

四六判 127 頁 本体 2200 円 + 税
978-4-915832-29-1 C0016 (1999)

現代アメリカ思想において大きな影響を与えたパウ
ル・ティリッヒの現代における宗教の意義を論じた論
文集。第一部ティリッヒに捧ぐ／ティリッヒがアメリ
カに与えた衝撃（ジェラルド・ブラウアー）、ティリッ
ヒの豊かさの源泉（ヴィルヘルム・パウク）、ティリッ
ヒと宗教史（ミヒャエル・エリアーデ）、第二部ティリッ
ヒによる論文／宇宙探検が人間の条件と態様に対して
与えた影響、未知の世界、進歩の理念の衰退と妥当性、
組織神学者にとっての宗教史の意義。

渡邊守道 著

ニコラウス・クザーヌス

A 5 判 300 頁 本体 5600 円 + 税
978-4-915832-34-5 C3031 (2000)

15 世紀の最も独創的な思想家、哲学者、神学者ニコ
ラウス・クザーヌスについての著者 30 年間におよぶ
研究をもとに書き下ろしたもので、クザーヌスの政治
社会思想、公会議と教会改革、それに著者の最も力を
いれた現代政治思想に対するクザーヌスの貢献を力説
し、次の章からなる。序説、第一部 クザーヌスの生
涯とその思想、第二部 クザーヌスの教会改革、第三
部 クザーヌスの周辺。結語、クザーヌスと現代、ク
ザーヌス年表。（クザーヌス生涯 600 年記念出版）

フリードリッヒ・ヴィルヘルム・グラーフ 著
深井智朗、安酸敏眞 編訳

トレルチとドイツ文化 プロテスタンティズム

A 5 判 320 頁 本体 4000 円 + 税
978-4-915832-40-6 C3016 (2001)

マックス・ヴェーバーと並び、19 世紀から 20 世紀に
かけてのドイツの文化科学、とくに歴史学、また神学
思想において大きな足跡を残した、エルンスト・トレ
ルチの思想を、文化史の観点から再評価し、現代にお
ける意義を論ずる意欲的な論考。著者は、ミュンヘン
大学プロテスタント神学部教授であり、1999 年度の
「ライプニッツ賞」を受けた気鋭の研究者である。

クエンティン・スキナー 著
梅津順一 訳

自由主義に先立つ自由

四六判 183 頁 本体 2400 円 + 税
978-4-915832-48-2 C1010 (2001)

今日支配的な自由理解である「自由とは、政治体制と
は関わりない個人的自由である」とする自由主義的理
解に対して、17 世紀のイギリス革命において隆盛を極
めたネオ・ローマ的自由理解、つまり他者の権力や意
思に従属しない自由という理解を掘り起こし、その現
代的意義を論ずる。現代における自由の理解に一石を
投じた注目の書。

深井智朗, フリードリッヒ・ヴィルヘルム・
グラーフ 編著

ヴェーバー・トレルチ・ イエリネック

ハイデルベルクにおける
アングロサクソン研究の伝統

四六判 236 頁 本体 3600 円 + 税
978-4-915832-45-1 C3010 (2001)

フリードリッヒ・ヴィルヘルム・グラーフ 著
近藤正臣, 深井智朗 訳

ハルナックとトレルチ

四六判 131 頁 本体 1800 円 + 税
978-4-915832-73-4 C0016 (2007)

ジョン・ウィット 著
大木英夫, 高橋義文 監訳

自由と家族の法的基礎

四六判 273 頁 本体 3200 円 + 税
978-4-915832-75-8 C3032 (2008)

土方透 編著

現代社会における ポスト合理性の問題

マックス・ヴェーバーの遺したもの

四六判 262 頁 本体 3200 円 + 税
978-4-915832-96-3 C3010 (2012)

ヨーロッパ近代の問題を理解する際に欠かすことのできない文献としてヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、トレルチ『近代世界の成立におけるプロテスタンティズムの意義』、イエリネック『人権宣言論争』がある。それらは、分野やアプローチは異なるものの、アングロサクソン世界に展開したプロテスタンティズムの意義に注目している。本書は、この主題で開催された国際シンポジウムの記録を編集したものである。

ドイツの第二帝国の時期（1870 年から 1918 年）は、急激な社会変化とそれに続く政治的、社会的、文化的対立によって特徴付けられる。この時期における神学も大きな変革を余儀なくされた。この時代に歴史的変動と取り組み神学的主題としたハルナック、トレルチなどの神学者を論じ、激動の時代のドイツの思想状況を明らかにする。

現代の社会で大きな課題に直面している結婚、デモクラシー、また教会と国家の分離などに、憲法学、法律学の立場から考察を加え、現代の諸問題に新しい視点から新しい局面を浮かび上がらせる。著者はエモリー大学法学部教授であり、同大学の「宗教と法」研究所長として数多くの研究活動を進めており、また著書を発表している気鋭の法学者である。

本書は「ポスト合理性」＝「合理性をはみだしたもの」を問題にする。近代は「宗教」と「科学」との相克のなかで合理性を展開してきた。近年、そうした合理性には収まりきれないさまざまな表象が、ある魅力をもって喧伝されている。それは近代が失ったものなのか、あるいはポスト近代の徴候なのか。本書は、マックス・ヴェーバーの理論に定位しつつ、「ポスト合理性」を浮き彫りにすることを試みたものである。カール・アッハム、ヨハネス・ヴァイスによる二つの論考、それに対する姜尚中、細見和之、荒川敏彦、土方透によるコメントとリプライ、さらにコメンテータによる 3 本の論考が収められている。

ラインホルド・ニーバー 著
高橋義文・柳田洋夫 訳

人間の運命

キリスト教的歴史解釈

A 5判 402頁 本体3700円＋税
978-4-907113-22-3 C3010 (2017)

ラインホルド・ニーバー『人間の本性と運命』第Ⅱ巻 (Reinhold Niebuhr, *The Nature and Destiny of Man*, Vol. II: *Human Destiny* (New York: Charles Scribner's Sons, 1943)) の全訳。

ニーバーの代表作の本邦初訳。歴史の本質的性格とその意味を、古代から近代に至るさまざまな思想と対話しつつ、キリスト教の視点に立って新たな解釈を試みている。歴史の限界をえぐり出すとともに、それを超える意味に目を向けながら、キリスト教的歴史観の現代における意義を訴える。

ラインホルド・ニーバー 著
高橋義文・柳田洋夫 訳

人間の本性

キリスト教的人間解釈

A 5判 384頁 本体3700円＋税
978-4-909022-99-8 C3010 (2019)

ラインホルド・ニーバー『人間の本性と運命』第Ⅰ巻 (Reinhold Niebuhr, *The Nature and Destiny of Man*, Vol. I: *Human Nature* (New York: Charles Scribner's Sons, 1941)) の全訳。

ニーバーの代表作の半世紀ぶりになされた最新訳。人間をめぐる、自然と精神、時間と永遠、破壊性と創造性、罪人と神の像、原罪と原初的義などの弁証法的性格を、古今の多様な思想との対話を通して浮き彫りにし、その現代的意義を訴える。『人間の運命』と対をなすニーバー人間学の粹。

土方透 編著

世界社会の宗教的 コミュニケーション (仮)

四六判
[近刊]

いま宗教は、あえて原理主義を標榜するか、ひたすら個人的な信仰の問題にとどまるか、あるいは相対化の波間で控えめに自己主張するかのようなのである。唯一の頂点や中心を持つことなく、絶対とされる価値や基準すべてが問いに付される世界社会において、横断的に機能する宗教的コミュニケーションは可能か？ キリスト教から論ずる。

倉松功 著

キリスト教信仰概説

四六判 134 頁 本体 1600 円＋税
978-4-915832-05-5 C0016 (2008)
初版第 2 刷

日本のプロテスタント・キリスト教の中で、最も多数をしめる日本基督教団の「信仰告白」を解説することによって、プロテスタント・キリスト教信仰がどのようなものであるか、その概要を示す。また「聖書と宗教改革」「ルターの聖書の読み方」を収録する。

澁谷浩 著

思いやりの 主イエスとともに

聖日講話集

品 薄

四六判 192 頁 本体 1600 円＋税
978-4-915832-42-0 C0016 (2001)

本書は、我孫子無教会キリスト教集会の聖日講話として著者が述べたものの中から 37 回分の講話を「十字架を負いて我に従え——信仰について」、「敬愛のエートス——無教会について」、「時の徴し——宗教と政治について」、「思いやりの主イエスとともに——ヘブル書を学ぶ」に分類し編集されている。『近代思想史における内村鑑三』が示す精神の方向を受け継いだものである。

聖学院キリスト教センター 編

神を仰ぎ、人に仕う

キリスト教概論 21 世紀版（第 3 版）

A 5 判 272 頁 本体 2000 円＋税
978-4-915832-54-3 C0016 (2011)

「本書は大学においてはじめてキリスト教に触れ、それを学ぶ人に、『キリスト教とは何か』を的確に伝達しようとしています。キリスト教とは何かを知ることが、現代文明の中で大学教育を受けるにあたって必須であると確信し、その本質を伝授しようと意図している」（はじめに）。大学生がキリスト教の「福音」に出会うことの手助けとなることを目指して、聖書に基づいてまとめられたものである。現代においてキリスト教の福音を知りたいと願う人の入門書。

津村春英 著

「ヨハネの手紙一」の 研究

聖書本文の帰納的研究

A 5 判 244 頁 本体 4000 円＋税
978-4-915832-69-7 C3016 (2006)

新約聖書「ヨハネの手紙一」は小さな書簡であるが、キリスト教信仰の根幹に関わる思想を表明しているものとして長く重要な文書とされてきた。著者はこの書簡が書かれた背景、表現の特徴などから、論敵の主張に対するヨハネの反論などを詳細に論じ、読者であるヨハネ共同体がその時代において重要な使信として受けとめたかを明らかにする。

倉松功 著

自由に生きる愛を 生きる

若い人たちに贈る小説教集

四六判 262頁 本体2200円+税
978-4-915832-80-2 C0016 (2009)

混迷する現代の中でいかに生きるべきか見失っている人々に、聖書から「自由に生きること」「愛を生きること」のメッセージを解き明かし、語りかける。特に生きる意味を見失い、自信を喪失している若い人々に賜物を与えられていることに気づき、賜物を感謝して他の人々とともに生きることを意味をやさしく語る。

金子晴勇, 平山正実 編著

愛に生きた証人たち

聖書に学ぶ

四六判 380頁 本体2400円+税
978-4-915832-82-6 C0016 (2009)

「愛は多様な人間関係の中に生きて働く生命である。この愛という活動的な生命を理解するためには単なる心理学的な説明や学問的な解説では何ら役に立たないと言わねばならない。そこで生命を証する『証言』が果たす重要な役割が認められよう。事実、聖書はこのように愛に生きた証人たちによって満たされている」(序文より)。旧約聖書、新約聖書から愛に生きた人々の生き様を語る。

聖学院キリスト教センター 編

神を仰ぎ、人に仕う・ 改訂 21 世紀版

キリスト教概論

A 5判 270頁 本体2100円+税
978-4-907113-04-9 C0016 (2015)
初版第2刷

本書はキリスト教とは何かを知ることが、現代文明の中で大学教育を受けるにあたって必須であると確信し、その本質を伝授しようと意図している。大学生がキリスト教の「福音」に出会うことの手助けとなることを目指して、聖書に基づいてまとめられたものである。現代においてキリスト教の福音を知りたいと願う人の入門書。2013年、学校法人聖学院の使用聖書の『口語訳聖書』から『新共同訳聖書』への変更に伴い、本書中に使用する引用聖句を新共同訳に変更。若干の手直しを加えて、『神を仰ぎ、人に仕う・改訂 21 世紀版』として刊行した。

菊地順 編著

永遠の言葉

キリスト教概論

A 5判 288頁 本体2400円+税
978-4-909022-82-0 0016 (2018)

本書は、永遠の言（ことば）であるイエス・キリストを特に若い人たちに知ってもらいたい、混迷を深める現代に生きる若い人たちに、時代を超えて一人ひとりを生かす永遠の言に出会い、その出会いを通して、より真実な生き方へと招かれてほしいとの思いで書かれている。目次 I 序——出会い／Ⅱキリスト教とは何か／Ⅲ神とその民——キリストに至る道（旧約聖書）／Ⅳイエス・キリストの福音／Ⅴ神の民としての教会／Ⅵ教会の歴史と現代／Ⅶ希望と喜びに生きる

W・パネンベルク 著
大木英夫、近藤勝彦 監訳

キリスト教社会倫理

四六判 270 頁 本体 2524 円＋税
978-4-915832-00-0 C0016 (1992)

高橋義文 著

ラインホルド・ニーバー の歴史神学

ニーバー神学の形成背景・諸相・特質
の研究

四六判 478 頁 本体 4272 円＋税
978-4-915832-06-2 C0016 (1993)

W・パネンベルク 編著 大木英夫、
近藤勝彦、朴憲郁、西谷幸介、大住
雄一、荒木忠義、深井智朗 訳

歴史としての啓示

品切

四六判 326 頁 本体 3107 円＋税
978-4-915832-02-4 C0016 (1994)

組織神学研究会 編

ユルゲン・モルトマン研究

組織神学研究 第1号

品薄

A 5 判 120 頁 本体 2000 円＋税
978-4-915832-21-5 C3016 (1998)

ドイツの神学者、W.パネンベルクが論ずるキリスト教社会倫理学。倫理的規範がゆらぐ現代の倫理的危機状況を認識しながら、法、倫理の基礎づけの基本的問題から、政治権力、平和、人類統一など、現実的諸問題までを、神学を基盤に論じている。この試みは、この世界的課題に対する神学からの一つの強力な寄与を提示してくれるといつてよいであろう。

神学者、社会活動家、政治哲学者、倫理学者、歴史哲学者、文明批評家等々幅広い活動を展開した R. ニーバーの神学思想を解明する気鋭の書き下し。ニーバー神学形成の背景（青年期のニーバーを育んだ教会とその神学的土壌、デトロイトでの牧会、ユニオン神学大学への赴任）、ニーバー神学の教義的諸相（中期のニーバーの思想を丹念に追い、神話・象徴・啓示、人間、終末論、キリストなど）、ニーバー神学の特質の三部からなる。（平成5年度文部省科研費交付図書）

神の啓示を客観的な歴史的事実の中に見ようとする「歴史の神学」の立場を明確にした論争の書。啓示を超歴史的なものと理解する立場（バルトを含む）と実存論的にとらえる立場（ブルトマン）に対して、創造から終末にいたるまでの普遍的な歴史過程全体が啓示の場所であるとし、啓示は神が「直接的に自己を顕示する」ものではなく、歴史過程において「間接的に自己を啓示する」と主張する。

モルトマンは、終末論に基づいた『希望の神学』等で知られる、チュービンゲン大学教授。本書は、組織神学研究会での過去1年間の研究発表をまとめた論文集である。目次／バルトとモルトマン 三位一体論、とくに聖霊論の対比／死者の居場所をめぐる バルトとモルトマン／「神の像」としての人間理解に基づく教育的展開／モルトマンの包括的終末論とアメリカのメシアニズム／Antizipation ユルゲン・モルトマンの神学における根本概念としての「先取り」。

倉松功 著

ルター神学の再検討

A 5判 251頁 本体4800円+税
978-4-915832-23-9 C3016 (1998)

宗教改革者 M. ルターの神学は戦後、ルター派神学者たちのナチスへの協力などの事実からも、多方面から批判されてきた。著者は、ルター批判の妥当性を承認しつつも、その神学思想を原資料から読み直し、時代状況のなかから再検討した。一方で、ルター神学の本質と構造を解明し、他方でその思想が、文化多元主義社会、人権の確立、デモクラシー社会の形成などの現代的課題にどのような有効性をもっているかを明らかにする。

W・パネンベルク 著
深井智朗 訳

近代世界とキリスト教

四六判 174頁 本体2000円+税
978-4-915832-26-0 C0016 (1999)

近代世界の成立にキリスト教はどのような役割を果たしたのか。この問いに対して、ヴェーバーやトレルチなどの見解が提示されてきた。ポスト・モダンや近代の終焉が語られる現代において、プロテスタント・キリスト教が果たした役割について、時代遅れのものと思なされる傾向がある。現代ドイツ神学者のパネンベルクは、近代世界の成立とキリスト教の関係を積極的に評価し、さらに現代のキリスト教の諸問題を明らかにしている。

組織神学研究所 編

パウル・ティリッヒ研究

A 5判 296頁 本体3800円+税
978-4-915832-27-7 C3016 (1999)

ティリッヒは、バルトと並ぶ20世紀の弁証法神学の巨匠であるが、本書は、存在論に基づく体系的な大著『組織神学』を中心に、1年間の共同研究をまとめたものである。主な目次／ティリッヒの世界へ入っていく。ティリッヒの牧会心理学への貢献。ティリッヒの組織神学における生と霊の働きとの関係。ティリッヒとハイデガーの構造論的相同性。ティリッヒの歴史神学の一局面。ティリッヒのキリスト論における新存在の概念とその問題点。

組織神学研究所 編

パウル・ティリッヒ研究2

A 5判 280頁 本体3800円+税
978-4-915832-33-8 C3016 (2000)

ティリッヒの大著『組織神学』の1年間にわたる共同研究の総まとめとして8名の研究者が書き下ろした論文をまとめたもので、Ⅰ神学史におけるティリッヒ、Ⅱ新しい存在、Ⅲティリッヒ神学の根本問題、の三部からなる。またティリッヒの高弟、L. ギルキー博士の論文をも収録。

深井智朗 著

政治神学再考

プロテスタンティズムの課題としての
政治神学

品切

四六判 244 頁 本体 2600 円 + 税
978-4-915832-35-2 C3012 (2000)

「政治神学」の定義は無数にあるが、本書は「宗教と国家との関係」という視点からの「政治神学の類型論」を試みている。いわゆるコンスタンティヌス体制における宗教と国家との関係における政治神学をタイプ A とし、それに対してアングロサクソン世界に展開したプロテスタンティズムの政治神学をタイプ B として、後者のコンテクストで日本における「宗教と国家との関係」の考察を試みている。

金子晴勇 著

近代人の宿命と キリスト教

世俗化の人間学的考察

四六判 306 頁 本体 3000 円 + 税
978-4-915832-46-8 C3016 (2001)

本書は、近代社会における宗教の衰退、あるいは宗教の個人化という「世俗化」現象を分析し、解明してきた宗教社会学の成果を批判的に吟味し、また現代の諸科学における「世俗化」の理解をとりあげながら、人間学的な観点から「世俗化」現象を考察する。宗教社会学・諸科学では欠落させてしまう人間の霊性に考察の光をあて、現代において人間的精神を回復させる宗教の意味を論じる。

ラインホルド・ニーバー 著
大木英夫、深井智朗 訳

アメリカ史のアイロニー

四六判 310 頁 本体 3800 円 + 税
978-4-915832-44-4 C3016 (2002)

アメリカは 20 世紀の半ば、突如として、国民的経験も精神的準備もないままに世界史的勢力として台頭し、世界史の中に踊り出た。この「大国」アメリカはどこに向かうべきか。本書は、原書が 1952 年に出版されているが、世界史的「大国」アメリカの問題を「権力の腐敗」の問題として鋭く抉り出し、アメリカを自己認識と責任意識へと導こうとする、現代の問題をも照射するアメリカ論の新訳である。付録として巻末にニーバーの「ユーモアと信仰」を収録。

M. L. スタックハウス 著
深井智朗 監訳

公共神学と経済

A 5 判 307 頁 本体 4100 円 + 税
978-4-915832-43-7 C0016 (2004)

宗教の機能を個人の敬虔の問題として矮小化する傾向と宗教をだれにも与えられている真理の問題として拡散させる方向に対して、著者は、キリスト教神学の伝統から、「スチュワードシップ」という概念を展開し、キリスト教信仰は、公的領域に関わり、現代の政治・経済の複雑な課題に対しても、「解釈的で規範的なガイドラインを提供する」ことを論じる。著者は、プリンストン神学大学院教授。

チャールズ・C・ブラウン 著
高橋義文 訳

ニーバーとその時代

ラインホルド・ニーバーの預言者的
役割とその遺産

A 5判 564頁 本体6000円+税
978-4-915832-49-9 C3016 (2004)

「預言者の現実主義者」として、アメリカの神学者だけでなく、政治学者また政治家たちに多大な影響を与えたラインホルド・ニーバーの伝記。数多くのニーバーの伝記の中でニーバーの思想の意味をニーバーの生きた時代・社会との関連を明らかにしながら解明する「バランスのとれた伝記」として高く評価されている。

古屋安雄, 倉松功, 近藤勝彦,
阿久戸光晴 編

歴史と神学 上巻

大木英夫教授喜寿記念献呈論文集

A 5判 618頁 本体8000円+税
978-4-915832-63-5 C3016 (2005)

日本にとどまらず世界の神学, また社会倫理, 教育の分野で大きな影響を与えてきている大木英夫教授の喜寿を祝う献呈論文集。大木教授の神学, 思想は「正典としての聖書に基づきつつ, 社会変動の歴史的動向を洞察しその上で人間と世界, また日本の現実の深層次元に肉薄する衝撃力に富んだ思想である。その内容はエネルギーな『政策力』となって展開されるところにその真骨頂がある」(献呈の辞)。その影響を直接的に間接的に受けた内外の44名による論文集である。

古屋安雄, 倉松功, 近藤勝彦,
阿久戸光晴 編

歴史と神学 下巻

大木英夫教授喜寿記念献呈論文集

A 5判 702頁 本体8000円+税
978-4-915832-67-3 C3016 (2006)

本書は, 大木教授の影響の広がりとその影響の強さが物語られているだけでなく, ここには領域を越えた対話を生み出すひとつの思想空間が形成されていることが提示されている。内容は, 第Ⅰ部 組織神学とその周辺, 第Ⅱ部 聖書神学, 第Ⅲ部 歴史と神学, 第Ⅳ部 社会と思想, 第Ⅴ部 文学と神学, の五部構成。執筆陣の専門分野は, 神学にとどまらず, 文学, 政治学, 法学, 経済史, など多彩である。

大木英夫 著

ピューリタン

近代化の精神構造

著者は, 近代の成立をルネッサンスと宗教改革に求め, 非宗教化と捉える俗説を排し, 近代の起源を, 「教会と国家の分離」「人間の個人化」「契約社会への移行」という構造変化に見出す。その構造変化の担い手としてのピューリタンたちの運動の思想史を描く。名著『ピューリタン』の改訂新著。

四六判 230頁 本体2000円+税
978-4-915832-66-6 C0022 (2006)

W・パネンベルク 著
大木英夫、近藤勝彦 監訳

現代に生きる教会の 使命

四六判 265 頁 本体 3600 円 + 税
978-4-915832-86-4 C3016 (2009)

パネンベルクは、1928 年に生まれた現代ドイツのプロテスタント神学者でミュンヘン大学教授などを歴任。現代の教会が直面する問題を縦横無尽に論じた諸論文を収録。さきに翻訳された『キリスト教社会倫理』の続編。「教会外のキリスト教」「教会の統一」「分裂した教会と共通の過去」「教会の使徒性と普公性の理解」についての終末論の意義」「諸教派とキリスト者の一致」「宗教改革と教会の一致」「エキュメニカルな職務理解」「聖餐」ほか。

T・R・ライト 著
山形和美 訳

神学と文学

言語を機軸にした相関性

四六判 436 頁 本体 5000 円 + 税
978-4-915832-81-9 C3098 (2009)

人間の経験の中にある言語によって、人間の経験を超えた神を語りうるのか？ この神学的アポリアに文学評論の立場から取り組む。物語の神学、隠喩的神学、劇の神学を俎上に載せ、聖書の言語がこれらの文学的表現を通して豊かに神を語りうることを明らかにする。（正誤表有）

鶴沼裕子 著

史料による日本キリスト教史

四六判 200 頁 本体 1800 円 + 税
978-4-915832-01-7 C0016 (2018)
第 2 版第 5 刷

キリシタン時代から現代に至るまでの、日本におけるキリスト教の受容と展開をわかりやすく素描した「歴史篇」と、手に入りにくい原史料から日本のキリスト教を読みとく「史料篇」からなる。原史料にあたりながら読み進められるように工夫されている。この一冊で、日本のキリスト教の歴史について基礎的知識が得られる恰好の入門書である。

高橋昌郎 編著

日本プロテスタント史の諸相

品切

A 5 判 330 頁 本体 6408 円 + 税
978-4-915832-12-3 C1021 (1995)

日本プロテスタント史研究会員による書き下し論文集。序論—日本史研究からみた日本キリスト教史／幕末在日宣教師の禁教令撤廃運動／日本基督公会の挫折と長老派の動向／一番町教会（富士見町教会の前身）の設立と植村正久／巖本善治と「女学思想」／透谷・愛山・明石・坎堂／長野時代の山路愛山／植村正久の「我ら自らの教会」と明治政府／内村鑑三と理想団運動／松野菊太郎の生涯と信仰／瑞西普及福音新教伝道師 J・フンチケルについて／キリスト教と治安維持法をめぐって。

濱田辰雄 著

神道学者・折口信夫とキリスト教

品切

A 5 判 210 頁 本体 3204 円 + 税
978-4-915832-10-9 C1014 (1995)

折口信夫はユニークな神道学者であった。日本の伝統的宗教である神道を、太平洋戦争敗戦後、キリスト教をモデルとして大胆な構造改革を試みたのである。本書はこの折口信夫の「戦後神道論」を軸に、日本とキリスト教の関わりを論じる。第一部 折口信夫の思想構造とその性格 国学者としての折口信夫／折口信夫の神観—まれびと論／異郷・他界論／折口信夫の「あたみずむ」論／第二部 折口信夫の戦後神道論とキリスト教、ほか。（平成 6 年度文部省科研費交付図書）

古屋安雄 著

日本の将来とキリスト教

A 5 判 347 頁 本体 3800 円 + 税
978-4-915832-41-3 C3016 (2001)

日本の近代化（西洋化）の問題は、西洋の技術・学問は受け入れたが、その根底にある「キリスト教」を排除して受け入れたことである。アジアで近代化を成しとげ、経済的に成長したにもかかわらず、「キリスト教ぬき」の成長・発展は大きな問題を生じさせてきた。著者は以上の認識から、現代日本の問題の根底にある西洋受容の「ねじれ」を、アメリカ、ヨーロッパなどとの比較において指摘し、21 世紀における日本の課題を明らかにする。

鵜沼裕子 著

近代日本キリスト者の 信仰と倫理

品薄

A 5判 186頁 本体 3600円＋税
978-4-915832-32-1 C3016 (2000)

近代日本のキリスト教に関する研究の主要な関心は、これまで主として「近代化」という国家的課題の中で、キリスト教が果たしてきた開明的役割を明らかにすることであり、政治・社会との関わりに重点がおかれてきた。本書では、これまでの研究を踏まえつつ、近代日本における代表的キリスト者である、植村正久、内村鑑三、新渡戸稲造、三谷隆正、賀川豊彦を取り上げ、かれらの信仰を内在的に理解し、その信仰と倫理の実像を描く。

鵜沼裕子 著

近代日本キリスト者 との対話

その信の世界を探る

A 5判 228頁 本体 3000円＋税
978-4-909022-65-3 C3016 (2017)

信仰主体の「宗教の体験」・「宗教の事実」に迫り、信仰と思想・行動の内的構造連関を共感的に再把握することを試みた論文集。序章：方法的視座としての宗教体験／第一章：植村正久における文学と信仰／第二章：内村鑑三における信仰と倫理／第三章：新渡戸稲造の世界／第四章：波多野精一の他者理解／第五章：賀川豊彦の世界／第六章：高倉徳太郎の生と死をめぐって／第七章：キリスト教から見た国家と倫理

山田園子 著

イギリス革命と アルミニウス主義

A 5判 364頁 本体5800円+税
978-4-915832-18-5 C3022 (1997)

イギリス革命期の急進的聖職者ジョン・グッドウィンは『しょく罪されたしょく罪』（1651年）によって、カルヴァンの運命論的な二重予定説を批判した。その思想の中核にあった神の選びは万人におよび、その摂理は人間の自由意志と矛盾しないと説いた16世紀オランダのアルミニウスの教説を詳説し、それがイギリス革命におよぼした影響を明らかにする。（平成9年度文部省科研費交付図書）

大澤麦, 澁谷浩 訳

デモクラシーにおける 討論の生誕

ピューリタン革命におけるパトニー
討論

A 5判 366頁 本体5800円+税
978-4-915832-30-7 C1022 (1999)

ピューリタン革命の最中の1647年10月28日から3日間、国王を逮捕した革命軍が今後の方針を討議するためにパトニーで総評議会を開催した。議長はオリヴァ・クロムウェルがつとめ、新しい政治体制を主張するレヴェラーズと激しい議論を進めた。A.D.リンゼイは、ここに近代デモクラシー思想の源泉があったとする。本書は、ウドハウスの編集によるテキスト「パトニー討論」の翻訳に訳者注記と解説を付し、この討論の政治思想史における意義を解明する。

田村秀夫 編著

クロムウェルと イギリス革命

品薄

A 5判 314頁 本体5600円+税
978-4-915832-31-4 C1022 (1999)

ピューリタン革命の立役者、オリヴァ・クロムウェルはデモクラシー思想の点でも、政治指導者という意味からも重要な人物であるが、その本格的研究が立ち遅れている。本書では、序章「クロムウェル研究史」、第1部「クロムウェルの宗教」、第2部「クロムウェルと政治」、第3部「クロムウェルと国際関係」という多角的な視点からクロムウェルの全体像を構築する。またクロムウェル研究に益する詳細なクロムウェル研究関連文献を付している。

ボール・ヘルム 著

松谷好明 訳

カルヴァンとカルヴァン 主義者たち

四六判 197頁 本体3000円+税
978-4-915832-51-2 C0016 (2003)

宗教改革者カルヴァンの思想はヨーロッパ、イギリスなどにどのような影響を与えたのか。本書は、カルヴァンの影響がカルヴァン主義者たちによって変節されたとするケンドールなどの研究に対してカルヴァンの著作に基づき批判し、カルヴァンの思想のイギリス・ピューリタンへの継承を跡づける。

ジョン・ミルトン 著
新井明, 野呂有子 訳

イングランド国民のための 第一弁護論および第二弁 護論

A 5判 526頁 本体6600円+税
978-4-915832-55-0 C3031 (2003)

イングランド革命期に国王チャールズ一世を処刑した
イングランド国民に対して、フランスの学者、サルマ
シウスなど国王派は「王権神授説」を掲げ、非難した。
ジョン・ミルトンは「国王といえど、暴君であれば国
民に服従の義務がない」ことを主張し、弁護した。本
書は、ミルトン研究者によってラテン語文献から翻訳
され、また訳注、解説によって、その思想を現代にお
いて理解できるよう便宜が図られている。

松谷好明 著

イングランド・ ピューリタニズム研究

品薄

A 5判 430頁 本体8000円+税
978-4-915832-70-3 C3022 (2007)

イギリスに起こり、アメリカへと展開したピューリタ
ニズムは明治期から日本の文学・思想に多大な影響を
与えてきているが、一方でまちがった理解によりゆ
がんだピューリタニズム像も描かれてきた。本書は、
ピューリタンたちの生み出した第一次資料にあたっ
て歴史資料に則ったピューリタン像を描くとともに、
ピューリタニズムを世界史的動向の中で捉え、歴史を
変革し、形成する普遍的原理としてのピューリタニズ
ムを評価しなおすものである。

酒井文夫 著

国家と法の比較研究

違憲審査制と基本的人権の考察

品 薄

A 5判 462頁 本体7961円+税
978-4-915832-07-9 C3032 (1994)

近代デモクラシーの基盤にある違憲審査制と、近代人権概念の根幹にある「信教の自由」の欧米各国における成立過程を歴史的にたどり、日本の明治憲法と日本国憲法を比較考察する。第1部 欧米・日本の違憲審査制の比較 欧米の違憲審査制の成立と特質／司法権の意義と日本の違憲審査制の機能／デモクラシーと法制度／日本国憲法における「法の支配」、第2部 国家と宗教・思想——信教の自由・学問の自由の考察 欧米における「国家と宗教」明治憲法と信教の自由、ほか。

隅谷三喜男 著

アジアの問いかけと日本

あなたはどこにいるか

四六判 268頁 本体2136円+税
978-4-915832-08-6 C0036 (1994)

著しい経済成長をとげる東アジア、東南アジアの国々の政治・経済情勢を分析、その成長の背後にある社会的矛盾の増大を報告し、日本の果たすべき役割と責任を明らかにする。アジアに目を向けよう／アジアの苦しみを共に追う／アジアを見る眼／東アジアのデモクラシーと開発独裁／アジアの貧困と疾病／開発と人権の再統合を求めて／朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を訪ねて／変貌する中国経済／NIESとしての台湾経済／中国教会の苦闘と発展ほか。

金井信一郎 著

社会改革への道五十年

品 切

A 5判 308頁 本体4661円+税
978-4-915832-09-3 C1033 (1994)

日本の社会政策を原理的に検証し、キリスト教倫理に裏付けられた新しい社会政策理論を打ち立てた著者の研究と活動をたどる。社会革新の倫理的基礎——R. ニーバーの社会倫理をめぐる／キリスト教と社会政策——J.C. ベネットの理解について／イギリス初期救貧法の展開——初期資本主義労働政策の視角より／団体交渉による社会保障——アメリカの団体協約による私的年金制度を中心として、ほか。

保谷六郎 著

日本社会政策の源流

社会問題のパイオニアたち

A 5判 274頁 本体3495円+税
978-4-915832-11-6 C3033 (1995)

明治・大正初期の社会問題や社会政策の啓蒙家・運動家たちの各人の思想と活動をつぶさに追ひ、日本の社会政策形成の先駆者たちの姿を生き生きと描く。第1章 社会政策の形成、第2章 島田三郎と社会政策、第3章 田口卯吉と社会政策、第4章 佐久間貞一と社会政策、第5章 豊原又男と社会政策、第6章 高野房太郎と鈴木文治、第7章 明治期の土地制度論者、第8章 勤労者生活と調査開発者。

工藤英一 著

単税太郎 C・E・ガルスト

明治期社会運動の先駆者

四六判 171 頁 本体 2330 円 + 税
978-4-915832-15-4 C3036 (1996)

1883 年（明治 16 年）来日、1898 年東京で没したアメリカ・ディサイプルス派の宣教師 C.E. ガルストの足跡をたどる。当時まだ鉄道も開通していない秋田への伝道、農学校出身の知識を活かしての農民たちとの交わりを通して、農村地域の貧困を知り、土地だけに課税すべきとする土地単税論を主張。みずから単税太郎を名乗り、黎明期日本の社会運動家と交流し、多くの影響を与えた。明治期のキリスト教と社会運動との関わりに新たな頁を加える。

三田村佳子 著

川口鑄物の技術と伝承

A 5 判 352 頁 本体 7600 円 + 税
978-4-915832-19-2 C3039 (1998)

埼玉県川口市は鑄物の町として知られ、現在僅か数人の職人・鑄物師によって守られている。この伝統的な鑄物の技術と伝承を民俗学の見地から、現地での調査を中心にまとめたものである。鑄物の製作技術を図・写真で詳細に記録し、また彼らの伝承する生活や信仰の世界をも考察する。第一章 川口の鑄物師、第二章 川口鑄物の製作技術、第三章 川口鑄物の分業化、第四章 川口の鑄物師の生活と信仰、第五章 鍛冶・製鉄をめぐる、ほか。（1997 年度日本生命財団出版助成）

大木英夫 著

「宇魂和才」の説

21 世紀の教育理念

四六判 300 頁 本体 2400 円 + 税
978-4-915832-24-6 C0037 (1998)

「和魂洋才」は、明治政府が富国強兵をめざしてとったスローガンだが、いまのグローバリゼーションの時代に、著者は戦後 50 年を経た危機的閉塞状況から脱皮するには、「和魂洋才」に代えて「宇（宙）魂和才」でなければならぬとし、これに基づき 21 世紀の教育のあるべき理念を論ずる。「大学の理念と学問の再統合」医の倫理との関連において、霊的次元の回復。「和魂洋才」でなく「宇魂和才」でなければならぬ——新しい日本の文化形成の指導理念、ほか。

後藤兼一 著

オフィス業務改革

品 薄

A 5 判 189 頁 本体 2200 円 + 税
978-4-915832-28-4 C0063 (1999)

日本のオフィス業務の改革・改善は政治経済レベルの改革である情報公開や規制緩和と並んで緊急の課題である。本書は、オフィスという場における業務の現状と改革・改善の必要性を示し、さらに BPR（Business Process Reengineering）を進める方法を解説したものである。とくに業務改革を進める突破口として話題になっている活動基準原価計算、活動基準管理を解説し、オフィス業務の効率化への適用を具体的に提示している。

Atsuaki Gunji ed.

Inactivity, Health and Aging

Proceeding of the 4th Symposium on Inactivity

品切

A 4判 124頁 本体3000円+税
978-4-915832-47-5 C3047 (2001)

“Not only lying in bed but also inactivity is bad for health.” The inactive life style is a danger to health. The meaning of this fact increases its importance along with graying of the population. Some physiological features of aging are attributable to inactivity and the mechanism would be explored by the bed rest study on young volunteers. This book is edited from the proceedings of participants to the 4th symposium on Inactivity. Many findings draw much on our former series of studies in 1997 and 1998 that were already published elsewhere. It is a great pleasure that this volume could have added much to the former attainments.

L. D. ガルスト 著
小貫山信夫 訳

チャールズ・E・ガルスト

ミカドの国のアメリカ陸軍士官学校卒業生

四六判 289頁 本体4000円+税
978-4-915832-52-9 C0016 (2003)

米国ディサイプルス派の宣教師 C.E. ガルストはウエストポイント（陸軍士官学校）に学び軍人を志すが、キリスト教の宣教師として献身することを決意し 1883 年（明治 16 年）来日した。東北秋田の地でキリスト教の伝道に携わる一方、社会運動にも乗り出し、土地だけに課税すべきとする土地単税論を説き、単税太郎と称された。本書はガルストの夫人による彼の劇的な生涯の伝記である。

康仁徳、小田川興 編

北朝鮮問題をどう解くか

東アジアの平和と民主主義のために

A 5判 199頁 本体2800円+税
978-4-915832-57-4 C0031 (2004)

北朝鮮問題は、東アジアに大きな緊張と危機をもたらしている。六カ国協議のゆくえは、また拉致問題は、本書は元大韓民国統一部長官の康仁徳氏と元朝日新聞編集委員の小田川興氏を編者に、伊豆見元・李鍾元・和田春樹など、朝鮮半島問題の専門家各氏による論考を通してこの課題に取り組み、平和的解決の道筋を検討するものである。

C. E. メリアム 著
和田宗春 訳

シカゴ

大都市政治の臨床的観察

A 5判 328頁 本体4600円+税
978-4-915832-53-6 C3031 (2006)

『政治権力』などの著作で知られる、アメリカ現代政治学の始祖、メリアムによる都市行政論の古典。急激に膨張する大都市の成長過程に、どのような政治機構、政治活動、人間組織が現れてくるのか、政治権力がどのようにして誕生してくるのかを詳細に描く。メリアム自身の市議会議員経験6年を含む28年のシカゴ在住の体験をもとに書かれたもので、メリアム政治学の原形とみなされる書。

大木雅夫, 中村民雄 編著

多層的ヨーロッパ統合と法

A 5判 590頁 本体6000円+税
978-4-915832-77-2 C3032 (2008)

本書は、政治、経済、法の各分野を横断する総合的な観点から、ヨーロッパ統合の過去と現在を重層的に見直すことによって、現在のEUをできるだけ客観的に認識し、これを基礎にしてEU法の現在を解明する。特に「欧州憲法条約」の意義など、正しい現実を認識し、歴史的・比較的方法によってEU法を客観的に認識し、日本の対EU政策の方向づけについて論じる。

枝野幸男 著

希望の芽はある

枝野幸男学生に語る

品切

A 5判 84頁 本体700円+税
978-4-915832-95-6 C0036 (2012)

本書は、2011年11月聖学院大学チャペルで開催された公開講演会での経済産業大臣・枝野幸男議員の講演と学生との質疑をまとめたもの。枝野氏は時代の大きな転換点だからこそ意識改革を学生によびかけた。講演後の学生とのランチセッションでは、講演についての感想や、TPP参加、震災・原発事故対応などについて様々な質問が次々に飛び交った。

ヨハン・セルス, チャールズ・E・マクジルトン 著

人間としての尊厳を守るために

国際人道支援と食のセーフティネットの構築

A 5判 76頁 本体700円+税
978-4-915832-98-7 C0036 (2012)

ヨハン・セルス氏は、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)駐日代表として難民支援にあたっている。チャールズ・E・マクジルトン氏は、自ら日本の「困窮者」としての生活を送り、「セカンドハーベスト・ジャパン」というNPOを立ち上げ、食べ物を必要としている人々に食料品を提供する活動を展開。本書は人間の尊厳に立ち、人間の尊厳に向かう「当事者」として活動する2人の講演をもとにまとめられている。

河島茂生 編著

デジタルの際

情報と物質が交わる現在地点

四六判 364頁 本体2000円+税
978-4-907113-11-7 C0036 (2014)

われわれは、デジタル情報に囚われているのではないだろうか。デジタル・ナルシスあるいは情報偏愛と呼べる事態にあるのではないだろうか。本書は、デジタルの幻惑から抜け出すために、「情報／物質」「集合性／個別性」の二軸を交差させ、デジタル情報の自己運動やそれをめぐる個人や身体のありかを具体的に描出する。デジタル情報に回収されない場も視野に収めながら、デジタルの輪郭線を多角的に描いた思考の集成。

郡司篤晃 著

安全という幻想

エイズ騒動から学ぶ

四六判 274 頁 本体 2000 円 + 税
978-4-907113-15-5 C0047 (2015)
初版第 2 刷

なぜ日本の血友病患者にエイズ感染が広がったのか、これまで明かされることのなかった真実の記録と悲劇を繰り返さないための政策提言。エイズ政策の意思決定にかかわった当事者が 30 年越しに綴る。

第一章：エイズの侵入と初期対応／第二章：研究の進歩と知見の変化／第三章：エイズ訴訟と和解に向けての動き／第四章：国々の対応／第五章：より良い社会づくりのために／第六章：思うこと

松原望 著

ベイズの誓い

ベイズ統計学は AI の夢を見る

A 5 判 255 頁 本体 3200 円 + 税
978-4-909022-96-7 C0040 (2018)

ゲノム解析、自動運転技術、ニューラル・ネットワーク。現代社会を彩る数々の AI、その元祖はベイズ統計学だった。時代に即して新しく、同時に 270 年の古い歴史をもち、「確率」、「論理」、「統計」の 3 要素をすべてバランスよく備えたベイズ統計学。同学に精通した松原氏が基礎から最新応用までわかりやすくまとめ、話題のシンギュラリティも独自の目線で切り込んだ最新作。初学者にもアップデートを試みる方にも最適な 1 冊である。

松原望 著

ベイズの誓い

ベイズ統計学は AI の夢を見る
[Kindle 版]

60702KB 本体 2315 円 + 税
978-4-909891-01-3 (2019.3)
冊子版 978-4-909022-96-7 C0040 (2018)

ゲノム解析、自動運転技術、ニューラル・ネットワーク。現代社会を彩る数々の AI、その元祖はベイズ統計学だった。時代に即して新しく、同時に 270 年の古い歴史をもち、「確率」、「論理」、「統計」の 3 要素をすべてバランスよく備えたベイズ統計学。同学に精通した松原氏が基礎から最新応用までわかりやすくまとめ、話題のシンギュラリティも独自の目線で切り込んだ最新作。初学者にもアップデートを試みる方にも最適な 1 冊である。

学校伝道研究会 編

キリスト教学校の再建

教育の神学 第二集

品薄

四六判 286 頁 本体 3400 円 + 税
978-4-915832-16-1 C3037 (1997)

倉松功, 近藤勝彦 著

キリスト教大学の 新しい挑戦

四六判 184 頁 本体 2400 円 + 税
978-4-915832-22-2 C3037 (1998)

倉松功 著

私学としてのキリスト教 大学

教育の祝福と改革

四六判 276 頁 本体 3000 円 + 税
978-4-915832-58-1 C3037 (2004)

学校伝道研究会 編

キリスト教学校の形成 とチャレンジ

教育の神学 第三集

品薄

A 5 判 314 頁 本体 3800 円 + 税
978-4-915832-61-1 C3037 (2006)

現代日本における多くの教育的課題の中で、キリスト教学校の教育的意義を神学、歴史学、教育学、思想史など、さまざまな領域の研究者が論ずる。第1章 キリスト教学校の形成／キリスト教学校の現代的意味、キリスト教大学、キリスト教大学の神学的基礎付け試論、第2章 キリスト教教育の理論／キリスト教古典に聴く教育の原理、人間学から見た霊性教育、第3章 現代における教育の課題／競争主義社会における教育の問題、第4章 キャンパス・ミニストリーの方向、ほか。

東北学院大学、聖学院大学の場を基に、神学者の立場からプロテスタント・キリスト教大学の在り方を、その可能性と理念を説く。序論キリスト教大学の建学の精神とその意義、第一部キリスト教大学の教育とその可能性／1 教育をめぐる問題とキリスト教、2 これからの日本とキリスト教教育、3 キリスト教大学の形成の中で、第二部キリスト教大学の理念／1 キリスト教大学の学問と教育、2 大学の基盤とキリスト教、3 大学のキリスト教的可能性について、ほか。

現代の社会が求める人材の養成のために、大学はどのような教育を実施すべきなのか、大学はどのような機能を果たせるのか。「私立大学」は、この変革の要請にどのように応え、「建学の理念」にたった高等教育を提供できるのか。筆者は本書で、東北学院大学学長として取り組んできた「現代における私立大学としてのキリスト教大学の意義とは何か」という根本問題に答える。

21 世紀を迎え、大学だけでなく学校制度そのものの変革が求められている。日本の教育界においてキリスト教学校は歴史的にどのような使命を持ち、キリスト教に基づくどのような教育を実現していくのか。このような問題意識から研究会を継続している「学校伝道研究会」は、その成果を論文集としてまとめ、本書は第三集になる。現代の国家、社会の中でキリスト教学校の使命と幼児教育から高等教育にいたるまでのキリスト教育の実践に焦点をあてる。

櫻谷真理子 編

美しいメロディーによる やさしいオルガン曲集

初級から中級へ

品切

菊倍判 64 頁 本体 2625 円 + 税
978-4-915832-79-6 C3073 (2008)

ピアノを習ってきた人がオルガンに移行しやすいように工夫されたオルガン用楽譜である。ペダルの動きが少なく、それでも音楽的にしっかりと構成され、きれいなメロディを美しく演奏できるように意図してある。リードオルガンでも演奏できるよう手鍵盤のみの曲や、やや上達した人のための曲も収録。教会での礼拝や結婚式などあらゆる機会に、フレスコバルディ、バッヘルベル、J・S・バッハ、テレマン、ツィボリ、モーツァルト、フランク他 31 曲。

和田雅史, 齊藤理砂子 著

健康科学

ヘルスプロモーション

A 5 判 216 頁 本体 2500 円 + 税
978-4-907113-17-9 C0047 (2016)

本書は、1986 年の WHO オタワ会議のスローガンとして提唱された現代的健康観としての「ヘルスプロモーション」の理念を具体的に著すことに主眼をおいてまとめられている。現代科学の到達水準を考慮し、できる限り最新の資料を取り上げた。簡易な医学知識の抜粋ではなく、生涯にわたって必要とされる健康科学の知識を提示している。

松本祐子 著

魔女は真昼に夢を織る

A 5 判 256 頁 本体 2300 円 + 税
978-4-907113-20-9 C0093 (2016)

第 I 部には、〈Witches Weave the World〉から想起される、みずからの手で世界を紡ごうとする異端の〈魔女〉たちをヒロインとした創作ファンタジー「魔女の森」、「氷姫」、「ガラスの靴」を、第 II 部「語りの魔法に魅せられて」には、物語世界に表象された〈魔法〉をめぐる論考として、「魔法ファンタジーに見る知と力の関係」、「おとぎ話の功罪」、「魔法の食卓」、「魔法にかけられた子どもたち」などを収録。

カバーイラスト：佐竹美保

松本祐子 著

魔女は真昼に夢を織る

〔Kindle 版〕

3344KB 本体 1840 円 + 税
978-4-909891-00-6 (2019.2)
冊子版 978-4-907113-20-9 C0093 (2016)

第 I 部には、〈Witches Weave the World〉から想起される、みずからの手で世界を紡ごうとする異端の〈魔女〉たちをヒロインとした創作ファンタジー「魔女の森」、「氷姫」、「ガラスの靴」を、第 II 部「語りの魔法に魅せられて」には、物語世界に表象された〈魔法〉をめぐる論考として、「魔法ファンタジーに見る知と力の関係」、「おとぎ話の功罪」、「魔法の食卓」、「魔法にかけられた子どもたち」などを収録。

カバーイラスト：佐竹美保

ジュリアン・ルグラン 著
郡司篤晃 監訳

公共政策と人間

社会保障制度の準市場改革

A 5判 282頁 本体5000円＋税
978-4-915832-74-1 C3036 (2008)

イギリスでは1980年から90年代に社会保障政策に大きな転機が訪れた。『政策立案者の『動機(motivation)』、つまり何が公的セクターで働く人々の動機となっているかについての信念と、『エージェンシー (agency)』、つまり個人、特に福祉国家の受益者が独立的に、あるいは自主的に行動できる能力についての信念に変化が生じたのである。そして、これらの変化は、特に行政サービスや福祉国家全体をどう構築すべきかについての見方を、深い転換へと導いた』（まえがきより）。

ラインホルド・ニーバー 著
高橋義文、西川淑子 訳

ソーシャルワークを支える宗教の視点

その意義と課題

四六判 220頁 本体2000円＋税
978-4-915832-88-8 C0036 (2011)
初版第2刷

本書が書かれた1930年代のアメリカは、科学技術による工業化、都市化と情報化の波に翻弄され、経済不況による凄まじい格差社会が到来していた。しかし社会の公正を実現するための「社会福祉事業」はあまりに理想主義的で、個人主義的で、感傷主義的で、機能していないという問題認識があった著者は、「社会の経済的再編成」「社会組織再編」「社会の政治的な再編成」という壮大な社会構想のもとで、本来あるべき社会福祉の姿を提示する。

柏木昭、中村磐男 編著

ソーシャルワーカーを支える

人間福祉スーパービジョン

A 5判 274頁 本体2800円＋税
978-4-915832-97-0 C3036 (2012)

高齢化とそれに伴う医療需要の増加により、保健・医療・福祉の連携が要請され、地域包括支援センター、病院の地域医療連携室、さらに退院支援、在宅医療、在宅介護などを例にとっても、ソーシャルワーカーへの期待は高まっている。本書は「スーパービジョン」および「スーパーバイザーの養成」の重要性を明らかにし、ソーシャルワーカーを支援しようとするものである。

平山正実 著

人生の危機における 人間像

危機からの創造をめざして
〈カウンセリング〉

品薄

四六判 252頁 本体2200円+税
978-4-915832-62-8 C3011 (2006)

人生の途上で人はさまざまな精神的危機に遭遇する。配偶者、子どもなど愛する人々との離別あるいは死別、財産や名誉、地位、役割などの喪失、病気や障害、あるいは死への直面である。人はどのようにその危機を受け止め、生き方を創造できるのか。モリス・シュワルツ、キューブラー・ロス、宮沢賢治、ポール・トゥルニエなどのライフヒストリーをたどる。

聖学院大学総合研究所カウンセ
リング研究センター 編

被災者と支援者のため の心のケア

A 5判 103頁 本体600円+税
978-4-915832-93-2 C0011 (2011)

本冊子は、被災者と支援者の心のケアに役立つことをめざしてまとめられた。臨床心理士、精神科医、牧会カウンセラー、スピリチュアルケアの専門家である著者たちが、あまりに悲惨な現状に語りかける言葉を見いだせない、また言葉にならないもどかしさを感じながら書いたものである。著者たちがもがき苦しみの中から書いたことばが被災した方々、支援する方々の心のどこかに伝わることを願う。

平山正実、堀 肇 編著

ヘンリ・ナウエンに学ぶ

共苦と希望

A 5判 143頁 本体2000円+税
978-4-907113-08-7 C0016 (2018)
初版第3刷

ヘンリ・ナウエンは現代人の孤立・孤独・霊的渇きをどう理解し、それに応えるためにどのようにアプローチしたか。彼の私たちへのコミュニケーションのスタイルは何か、どうしてそれが私たちの魂を奪い、感動を与えるのか。素晴らしい著作群の背後にある創作の秘密をさぐる。ナウエンの霊性や思想の理解、相手と影響し合うコミュニケーション方法の理解に役立つ一冊となっている。

福祉の役わり・福祉のころ

人間の幸福とは何であろうか。社会生活をおくる人間にとって何が最も大事なものだろうか。
福祉を実践しながら人間の幸福を追求している人々に聴くブックレット集。

阿部志郎 著

福祉の役わり・福祉のころ

〈福祉の役わり・福祉のころ 1〉

品薄

A 5判 44頁 本体400円+税
978-4-915832-78-9 C0036 (2008)

横須賀基督教社会館元館長・神奈川県立保健福祉大学前学長、阿部志郎氏の講演「福祉の役わり・福祉のころ」と対談「福祉の現場と専門性をめぐって」を収録。福祉の理論や技術が発展する中で、ひとりの人間を大切にするという福祉の原点が見失われている。著者はやさしい語り口の中でいま福祉が何をなさなければならないかを厳しく問いかける。

阿部志郎、長谷川匡俊、
濱野一郎 著

与えあうかわりをめざして

〈福祉の役わり・福祉のころ 2〉

A 5判 75頁 本体600円+税
978-4-915832-87-1 C0036 (2009)

本書は、「福祉」の原義が「人間の幸福」であることから、人間にとってどのような人生がもっとも幸福で望ましいものか、またそのために福祉サービスはどのようにあるべきかを福祉に長年携わっている著者たちが論じたものである。

阿部志郎氏は、横須賀基督教社会館会長として、長谷川匡俊氏は、淑徳大学で宗教と福祉のかかわりを教育する立場から、濱野一郎氏は、横浜寿町での福祉センターの現場から「福祉とは何か」を語りかける。

岩尾貢、平山正実 著

とことんつきあう関係力をもとに

〈福祉の役わり・福祉のころ 3〉

A 5判 83頁 本体600円+税
978-4-915832-89-5 C0036 (2010)

日本認知症グループホーム協会副代表理事であり、指定介護老人福祉施設の施設長である岩尾貢氏による「認知症高齢者のケア」、精神科医であり、聖学院大学総合研究所・大学院教授の平山正実氏による「精神科医療におけるチームワーク」を収録。福祉の実践における人へのまなざしとはどのようなものであるべきか。人間の尊厳、一人一人の生きがいが尊重される実践となるよう、共に暮らす人として相互主体的にかかわることに、最も専門性が要求されることが語られる。

岸川洋治、柏木昭 著

みんなで参加し共に つくる

〈福祉の役わり・福祉のこころ 4〉

A 5判 100頁 本体700円+税
978-4-915832-92-5 C0036 (2011)

福祉の実践が「人間の尊厳、生きがいが尊重される実践」となるためには、新しいコミュニティの創造に取り組むべきなのではないだろうか。横須賀基督教社会館館長の岸川洋治氏は社会館の町におけるコミュニティセンターとしての意義を、日本の精神保健福祉に長年尽力してきた柏木昭氏は地域における「トポスの創出」とクライアントとの協働について語る。

日野原重明 著

生きがいを感じて 生きる

〈福祉の役わり・福祉のこころ 5〉

A 5判 76頁 本体700円+税
978-4-915832-99-4 C0036 (2012)

前半の「なぜホスピスが必要か」は、聖学院大学創立20周年記念講演会の一環として実施された講演をもとに、後半の「いのちの教育」は、人間福祉学部こども心理学科開設記念として講演されたものをもとにまとめられている。自分の人生をしっかりと受け止め、人生を後悔しないための、また、世界の平和を築く人になるための人生の手本、模範が示されている。多くの若者に自分の人生を考える刺激を与え、大人にも、自分自身の人生を振り返りながら、残された人生をどのように生きるかを考える機会を与える内容。

石川到覚、柏木昭 著

「いま、ここで」の かわり

〈福祉の役わり・福祉のこころ 6〉

A 5判 97頁 本体700円+税
978-4-907113-01-8 C0036 (2013)

石川到覚氏の「宗教と福祉」には、仏教における人間観、仏教福祉の援助にかかわる実践理念と仏教ソーシャルワークの再構築への試みが語られており、柏木昭氏の「特別講義 人間福祉スーパービジョン」は、40年以上にわたるグループスーパービジョンの継続・実践の経験に裏打ちされた内容。一見、異なる考察のように感じられるが、両者とも福祉における「いま、ここで」のかかわりについての考察である。共感から出発して寄り添い、協働していく福祉の姿勢が求められる。

臨床死生学研究叢書

グリーフケアやグリーフワークをはじめ、死の準備教育など、
臨床に視点を置いた死生学の対象と課題を、多様な立場の専門家が論じる。

平山正実 編著

死別の悲しみに 寄り添う

〈臨床死生学研究叢書 1〉

A 5判 259頁 本体 3400円＋税
978-4-915832-76-5 C3011 (2008)

子どもや愛する家族を失った悲しみ、事故や戦争で家族を亡くした悲嘆にどのようにかわり、悲しみからの回復へ寄り添うケアが可能なのか、さまざまなケーススタディを通して、遺族に向き合う従事者に求められる「グリーフケア」の本質を論じる。著者は精神科医、終末期医療にかかわる看護師など、日本人の死生観をめぐる臨床死生学研究叢書の第一巻として刊行する。

平山正実 編著

死別の悲しみから 立ち直るために

〈臨床死生学研究叢書 2〉

A 5判 308頁 本体 4000円＋税
978-4-915832-83-3 C3311 (2010)

愛する家族や友人を病気や事故で失った人々がその悲しみをどのように受け止め、悲しみから立ち直ることができるのか。医師として看護師として、また精神科医として死別の悲しみに寄り添う方々が、臨床の場で考察を深め、死別の悲しみから立ち直るための、多様で個性ある道筋——グリーフワークを語る。

平山正実 編著

死別の悲しみを学ぶ

〈臨床死生学研究叢書 3〉

A 5判 300頁 本体 4000円＋税
978-4-915832-91-8 C3311 (2012)

死別の悲しみへの対応としてグリーフケアとグリーフワークを取り上げてきた「臨床死生学研究叢書」の第三巻として、「生と死の教育」を取り上げる。子どもとの死別、自死遺族の悲嘆など臨床の悲嘆研究から、看護教育の場で学校教育の場などでどのように死の準備教育がなされるべきかを提言する。

平山正実 編著

臨床現場からみた 生と死の諸相

〈臨床死生学研究叢書 4〉

A 5判 244頁 本体 4000円＋税
978-4-907113-03-2 C3311 (2013)

本書は、臨床に視点を置いた死生学の対象と課題を多様な立場の専門家が、自らの知識、経験、技術、信念に基づいて、解明しようとする論文を収めている。また、第Ⅲ部に、東日本大震災で教え子を亡くした教員とその教え子の遺族が文通することによって、双方が「グリーフケア」とは何かということを学び合った心の軌跡を描いた論文を収録。

窪寺俊之 編著

希望を支える 臨床生死観

〈臨床死生学研究叢書 5〉

A 5 判 196 頁 本体 4000 円＋税
978-4-907113-13-1 C3311 (2015)

第Ⅰ部には、聖学院大学総合研究所「臨床死生学研究」での講演をまとめた、石丸昌彦「こころの健康とたましいの健康——死生観の回復に向けて」、大貫隆「われわれの命に再生はあるか——キリスト教の復活信仰をめぐる」、関根義夫「信仰者にとって心の病」を収録。第Ⅱ部には2論文、黒鳥偉作「平山正実の医療哲学——キャリアという共苦の思想」、窪寺俊之「生死観の一考察——岸本英夫と高見順をもとにして」を収録。

スピリチュアルケアを学ぶ

生きる意味や人生の目的を失い、心の癒やしを求める現代人のために。
心理学や精神医学の領域を超えた魂のケアを学ぶシリーズ

窪寺俊之 編著

癒やしを求める魂の 渇き

スピリチュアリティとは何か
(スピリチュアルケアを学ぶ 1)

A 5判 170頁 本体1800円＋税
978-4-915832-90-1 C0311 (2011)

終末期医療の中で、医学的に癒やすことのできないスピリチュアルペインが問題となっている。スピリチュアルという、精神世界、死後の世界への関心など幅広い概念の中から、スピリチュアルの意味を探り、終末期におけるスピリチュアルケアの対象とする世界を描き出す。シリーズ続巻の理解のための基礎知識となる、島蘭進「スピリチュアリティの現在とその意味」を収録。

窪寺俊之 編著

スピリチュアルペイン に向き合う

こころの安寧を求めて
(スピリチュアルケアを学ぶ 2)

A 5判 204頁 本体2200円＋税
978-4-915832-94-9 C0311 (2011)

スピリチュアルケアは「魂へのケア」とも言い換えられるように、心の深みにある不安や畏れに苦しむ方々へのケアである。日本的視点からスピリチュアルケアの本質に迫ったカール・ベッカー氏の「医療が癒やせない病」、また、西野洋氏が自身のスピリチュアルペインに向き合う体験をもとに医療の本質を述べた「一臨床医のナラティブ」が収録されている。自分自身の根底にあるスピリチュアルなものを見いだすきっかけを与える内容となっている。

窪寺俊之 編著

スピリチュアル コミュニケーション

生きる希望と尊厳を支える
(スピリチュアルケアを学ぶ 3)

A 5判 217頁 本体2200円＋税
978-4-907113-02-5 C0311 (2013)

本書の副題「生きる希望と尊厳を支える」は、スピリチュアルケアの臨床現場での大きな課題である。第Ⅰ部の3論文は、聖学院大学総合研究所主催の講演をもとにまとめられたもの。林章敏「スピリチュアルコミュニケーション」、清水哲郎「希望・尊厳・スピリチュアル」、西平直「無心とスピリチュアリティ」。第Ⅱ部：窪寺俊之「スピリチュアルケアと自殺念慮者へのケア」、中井珠恵「医療および看護学のスピリチュアルアセスメントの特徴と問題点」。

窪寺俊之 編著

スピリチュアルケアの 実現に向けて

「第18回日本臨床死生学会大会」の取り組み
(スピリチュアルケアを学ぶ 4)

A 5判 292頁 本体2300円＋税
978-4-907113-05-6 C0311 (2013)

本書は2012年11月23日・24日に開催された「第18回日本臨床死生学会大会」(大会テーマ「スピリチュアルケアの実現に向けて——理論・実践・制度」)における4つのシンポジウムの内容をまとめたもの。収録された論稿は、スピリチュアルケアにかかわる多職種の方々によって、人生の危機にある人への温かいケアの実現に向かって知恵を出し合い、明日の臨床に役立つスピリチュアルケアが構築されること願って書かれている。

窪寺俊之 編著

愛に基づく**スピリチュアルケア**意味と関係の再構築を支える
(スピリチュアルケアを学ぶ 5)A 5判 222頁 本体2300円+税
978-4-907113-10-0 C0311 (2014)

第Ⅰ部にはホスピスケアの諸実践の報告、山形謙二「新しい人生の希望——ホスピス医療の現場から」、山崎章郎「ホスピスケアの目指すもの——ケアタウン小平の取り組み」、川越厚「在宅ホスピスケアと医の原点」を、第Ⅱ部にはスピリチュアルケアの普及を目指す2論文、小森英明「スピリチュアリティの架橋可能性をめぐる」、窪寺俊之「スピリチュアルアセスメントとしてのヒストリー法——『信望愛』法の可能性」を収録。

窪寺俊之 編著

**スピリチュアルケア
の心**いのちを育む力・委ねる力
(スピリチュアルケアを学ぶ 6)A 5判 258頁 本体2300円+税
978-4-907113-18-6 C0311 (2016)

ヴォーリズ記念病院ホスピス長の細井順氏による「いのちを育むホスピスケア——死にゆく人に生かされて」、栄光病院理事長・名誉ホスピス長の下稲葉康之氏による「死に対峙している魂の苦悩にどのように応えるか——ホスピスの現場から」、埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科教授大西秀樹氏による「がん医療の現場からみた心の問題」の3講演とケア実践者のアイデンティティとビジョンに関わる伊藤高章、窪寺俊之両氏の論文を収録。

窪寺俊之 編著

**スピリチュアルな
存在として**人間観・価値観の問い直し
(スピリチュアルケアを学ぶ 7)A 5判 269頁 本体2300円+税
978-4-907113-19-3 C0311 (2016)

第Ⅰ部には、生と死を考える会名誉会長A・デーケン氏の「心のケアと癒やし」、精神保健福祉士田村綾子氏の「心身の病とたましいのケア」、生命倫理・生殖医療が専門のチャブレン関正勝氏の「押しつけられた価値観から自由に」、社会倫理が専門の阿久戸光晴氏の「21世紀社会へのスピリチュアリティ論の貢献」の4講演を、第Ⅱ部には論考、田村綾子氏の「スピリチュアルケアの可能性」、窪寺俊之氏の「祈りのスピリチュアルケア」を収録。

窪寺俊之 著

**スピリチュアルケア
研究**

基礎の構築から実践へ

A 5判 376頁 本体4800円+税
978-4-909022-78-3 C3047 (2017)

聖学院大学総合研究所スピリチュアルケア研究室は臨床現場から浮かび上がるテーマを学問にする努力を積み重ねてきた。この論文集は、日常のケア現場で直面する課題に解答を見つけ出そうとした試みである。第Ⅰ部第六章では、著者が臨床体験から創り出したスピリチュアルヒストリー法である「〈信望愛〉法」を紹介している。第Ⅱ部は、スピリチュアルケアの視点から、若い人やその両親たちに向けて語った講演で、学術的議論は少なく読みやすいものとなっている。

聖学院大学研究叢書

本研究叢書発刊の目的は、学術書の刊行が非常に困難になっている状況の中で、聖学院大学における学術研究の成果を学術書として公開し、研究を促進することにある。

梅津順一 著

「文明日本」と「市民的主体」

福沢諭吉・徳富蘇峰・内村鑑三
〈聖学院大学研究叢書 1〉

A 5判 288頁 本体5800円＋税
978-4-915832-38-3 C3012 (2001)

開国と明治維新は、近代日本の為政者と人民に思想的に大きな課題を突きつけた。それは日本の目指す政治体制、為政者の役割、人民の生き方、あるいは国際社会における自国の位置付けを、世界に向かって「理解されるもの」として語る必要からであった。本書では、「文明日本」と「市民的主体」の二構想を諭吉・蘇峰・鑑三の思想を通して明らかにする。

安酸敏眞 著

歴史と探求

レッシング・トレルチ・ニーバー
〈聖学院大学研究叢書 2〉

A 5判 212頁 本体5000円＋税
978-4-915832-39-0 C3016 (2001)

中間時における真理の多形性をとく「真理の愛好者」レッシング、「徹底的歴史性」の立場でキリスト教的真理の普遍妥当性と格闘したトレルチ、歴史の有意味性を弁証しつつげたニーバーのそれぞれの思想的連関を考察し、著者の神学的・宗教哲学的立場から偶然的な歴史的真理と必然的な規範的真理の関係性を明らかにする。

金子晴勇 著

エラスムスとルター

一六世紀宗教改革の二つの道
〈聖学院大学研究叢書 3〉

A 5判 278頁 本体5800円＋税
978-4-915832-50-5 C3010 (2002)

自由意志の問題は、古代から中世、近代にかけて、アウグスティヌスとペラギウス、エラスムスとルター、ジェズイットとポール・ロワイヤルの思想家たち、さらにピエール・ベールとライブニッツなどの間で激烈な論争が繰り広げられた哲学と神学の重要主題であった。本書では自由意志と奴隷意志論争を焦点にルネサンスと宗教改革という二つの精神上的の運動を述べる。

郡司篤晃 編著

医療と福祉における 市場の役割と限界

イギリスの経験と日本の課題
〈聖学院大学研究叢書 4〉

A 5判 199頁 本体5000円＋税
978-4-915832-56-7 C3033 (2004)

イデオロギーの対立が消滅して、グローバリゼーションが進行し、あらゆる場面で経済競争が激化している。医療・福祉などの社会保障の分野でも例外ではない。そのサービスの質と平等を確保しつつ、いかにそれらのシステムを効率化していけるかが各国で模索されている。本書は、この重要な主題を論じたものである。

品薄

平修久 著

地域に求められる 人口減少対策

発生する地域問題と迫られる対応
〈聖学院大学研究叢書 5〉

品 薄

A 5 判 202 頁 本体 4800 円＋税
978-4-915832-60-4 C3331 (2005)

人口減少は住民という縮んでしまうパイの奪い合いを意味し、自治体の淘汰に繋がりがねない。しかしこの危機感には特に東京都市圏に含まれる自治体の間で芽生えていない。本書は、自治体へのアンケート調査をもとに、「人口減少期に対応する意識と政策」を分析し、人口減少というこれまで自治体が前提としてきた人口増加とはまったく異なるシナリオを提示。

H・リチャード・ニーバー 著
柴田史子 訳

アメリカにおける神の国

〈聖学院大学研究叢書 6〉

A 5 判 214 頁 本体 3000 円＋税
978-4-915832-71-0 C3022 (2008)

本書は、アメリカの社会学者、倫理学者、また神学者として知られる著者が、アメリカにおいて「神の国」という思想がどのように展開したかを歴史的に論じた古典である。1937 年の出版であるが、アメリカとは何かを神学的に解明しており、現代のアメリカのキリスト教、アメリカ社会を理解するうえで欠くことのできない書物である。

標宮子 著

とはずがたりの表現 と心

「問ふにつらさ」から「問はず語り」へ
〈聖学院大学研究叢書 7〉

品 薄

A 5 判 568 頁 本体 9000 円＋税
978-4-915832-72-7 C3095 (2008)

『とはずがたり』は 1938 年に発見され、埋もれた古典として話題になった文献であるが、それ以降、研究者によって地道な注釈研究がなされてきた。本書は、それらの成果を踏まえながら、作品の背景である宮廷貴族の生活を解明し、主題となっているさまざまな人間関係の中で苦悩する著者の生き方を現代に甦らせている。

高橋義文 著

ニーバーとリベラリズム

ラインホルド・ニーバーの神学的
視点の探求
〈聖学院大学研究叢書 8〉

A 5 判 438 頁 本体 8000 円＋税
978-4-907113-06-3 C3010 (2014)

神学的リベラリズムと政治的リベラリズムとの明示的・暗示的な取り組みを背景に、ニーバー特有の歴史との関係における超越的神学的視点を明らかにする。社会福音運動、マルクス主義、「民主的行動を目指すアメリカ人」(ADA)、アイロニー、ピューリタニズム、それらとニーバーとの関わり、ニーバーの教会論、モルトマンとハワーワスのニーバー批判などを論じている。(正誤表有)

村松晋 著

近代日本精神史の位相

キリスト教をめぐる思索と経験

〈聖学院大学研究叢書 9〉

近現代日本の思想家の「論理」とともに、その論理を通底する世界——思想家をしてそのような営みをなさしめた、精神の原器とも言うべきもの——に著者は一貫して関心を注ぐ。それゆえ「思想史」ではなく「精神史」を冠する。前田多門、南原繁、坂口安吾、松田智雄、波多野精一、氷上英廣、井上良雄、吉満義彦などを論じている。

A 5判 324頁 本体6800円＋税
978-4-907113-07-0 C3010 (2014)

菊地順 著

ティリッヒと 逆説的合一の系譜

〈聖学院大学研究叢書 10〉

ティリッヒは、その存在の深みから神について語り、またキリスト教の使信について語った。具体的には、神を「存在それ自体」として、またキリストを「新しい存在」として、さらに聖霊を「霊的現臨」として語るようになったが、これらの存在論的概念の核心には、本書が神と人間との〈逆説的合一〉と理解する、両者の究極的な関係へと収斂される神秘的な内実が含まれているのである。

A 5判 461頁 本体8500円＋税
978-4-909022-83-7 C3010 (2018)

A. D. リンゼイ著作シリーズ

アーネスト・バーカーと並ぶ現代イギリスの政治学者、道徳哲学者、アレキサンダー・ダンロップ・リンゼイの近代デモクラシーとキリスト教の関わりを論じた主要著作を翻訳し、「著作シリーズ」として出版する。

永岡薫，山本俊樹，佐野正子 訳 わたしはデモクラシー を信じる

〈リンゼイ著作シリーズ 1〉

四六判 150 頁 本体 2400 円＋税
978-4-915832-36-9 C1331 (2001)

『民主主義の本質』などで知られる英国の政治哲学者 A. D. リンゼイが BBC 放送にて発表したデモクラシー論の他に、トレレーション、個人主義に関する論文を加えた。本書のメッセージは、われわれにデモクラシーへの確信をいつまでも色あせることなく堅くさせる。

古賀敬太，藤井哲郎 訳 オックスフォード・ チャペル講話

デモクラシーの宗教的基盤
〈リンゼイ著作シリーズ 2〉

四六判 246 頁 本体 3400 円＋税
978-4-915832-37-6 C1331 (2001)

『民主主義の本質』などの著作で知られる A. D. リンゼイはオックスフォード大学副総長、ベイリオル・カレッジ学長をつとめたが、本書はオックスフォードにおける講話を集めたもので、リンゼイの政治哲学の根本にあるものが示されている。現代社会への鋭い問いかけがある。1. 宗教的真理の性格、2. 善良な人と利口な人、3. パウロとキルケゴール、など。

山本俊樹，大澤麦 訳 キリスト教諸教会と デモクラシー

〈リンゼイ著作シリーズ 3〉

四六判 125 頁 本体 1600 円＋税
978-4-915832-64-2 C1331 (2006)

近代デモクラシーの思想的起源には、フランス革命と、イギリス革命に求める二つの流れがある。リンゼイは、ピューリタン革命の中に生まれた「集いの意識」「共同思考」また「討論」によってこそ自由な批判が可能となり「公共空間」が形成され、非合理で感覚的な大衆プロパガンダから自由であることが可能となる、と主張する。

VERITAS LIBRARY

ヴェリタス叢書

“真理は自由を得させる” VERITAS とはラテン語で“真理”の意味

大木英夫 著

主の祈り

キリスト入門

〈ヴェリタス叢書 1〉 品切

四六判 187 頁 本体 1845 円＋税
978-4-915832-13-0 C1016 (1995)

著者が牧会する滝野川教会で行った「主の祈り」講解説教。また、東京神学大学での講演「祈りについて」、敗戦を契機に著者自身キリスト者になってゆく心の旅「キリストへの道」を付す。祈りという最も宗教的な行為に神学的考察を加え、一般に考えられている〈祈り〉とは全く異なるキリスト教の祈りの独自性を明確に指し示す。

澁谷浩 著

オリヴァー・クロムウェル

神の道具として生きる

〈ヴェリタス叢書 2〉

四六判 259 頁 本体 1942 円＋税
978-4-915832-14-7 C1016 (1996)

ピューリタン革命の中で、クロムウェルの信仰に裏付けられた議会での発言や画期的な軍政改革など、めまぐるしく変化する政治情勢の中での行動と思考を追う書き下ろし評伝。時代背景や思想状況の解説も詳しくまた平易に述べられており、イギリス・ピューリタン革命、クロムウェルとその激動の時代を理解する格好の書。

Veritas Books

ヴェリタスブックスは、ヨハネ福音書 8 章 32 節の「真理はあなたたちを自由にする」のラテン語、「veritas liberabit vos」から名づけられた。現代人が見失いがちな真理とは何かを問い、人間観、世界観の構築を手助けする。

阿久戸光晴 著

専制と偏狭を永遠に 除去するために

主権者であるあなたへ

〈Veritas Books〉

新書判 202 頁 本体 1600 円 + 税
978-4-907113-14-8 C0036 (2015)

権力の前に立って、存在の尊厳のもとに「真に畏れる」心を持つ者にこそ、「畏れる必要のないものを恐れない」心が与えられる。主権者教育の重要性が今こそ認識されるべき時である。基本的人権、国民主権、地方自治、日本国憲法の意義を語り、真の自由の行使を呼びかける。国際関係、国家と個人、価値、人権、教育、社会形成の各章にまとめられた 27 の提言（『聖学院大学総合研究所紀要』29 ～ 57 号巻頭言と講演他より）。

A Theology of Japan Monograph Series

日本におけるキリスト教神学は、これまで日本の文化に適合した神学となるか (Japanese theology), あるいは、日本化されたキリスト教となる神学であることをさげられないで来た (Japanized theology). *A Theology of Japan* シリーズでは、このようなキリスト教神学ではなく、「グローバル化のコンテクストにおいて日本をトータルかつラディカルにどうとらえるか」という問題意識に基づき研究書を出版し、新たな神学を構築しようとする。つまり「日本の神学の〈の〉」という genitive は主格的 (subjective) ではなく目的格的 (objective) であり、日本を批判的に対象化する」ことを目指すものである。

Hideo Ohki, Atsuyoshi Fujiwara,
David Oki Ahearn, Tomoaki Fukai,
Woon-Hae Nag

A Theology of Japan: Origins and Task in the Age of Globalization

A Theology of Japan: Vol. 1

B 5 変形判 121 頁 本体 1200 円 + 税
978-4-915832-59-8 C3316 (2005) 品切

This first volume of the monograph series, *A Theology of Japan* explores a theology that arose in post-war Japan and moved out to Asia and the rest of the world. It also considers from a theological perspective the sixty years following the end of the war.

Atsuyoshi Fujiwara ed.

Church and State in Japan Since World War II

A Theology of Japan: Vol. 2

B 5 変形判 164 頁 本体 2500 円 + 税
978-4-915832-65-9 C3316 (2006)

The symposiasts included Noriyoshi Tamaru (Professor Emeritus, Tokyo University) from Japan, F. W. Graf (Professor, Munich University) from Germany, and W. J. Everett (Professor Emeritus, Andover-Newton Theological Seminary) from the United States.

This issue includes all of their presented papers as well as the responses to them.

Yasuo Furuya

History of Japan and Christianity

A Theology of Japan: Vol. 3

B 5 変形判 179 頁 本体 2500 円 + 税
978-4-915832-68-0 C3316 (2006)

The history of Japan has been indirectly or directly influenced by Christianity more than may be apparent, as this volume so ably shows. The understanding presented here is indispensable for any theological inquiry into Japan, or “theology of Japan.”

Atsuyoshi Fujiwara ed.

“A Theology of Japan” and the Theology of Hideo Ohki

A Theology of Japan: Vol. 4

B 5 変形判 110 頁 本体 2500 円 + 税
978-4-915832-84-0 C3316 (2009)

This volume contains Professor Hideo Ohki’s writings on the project he initiated, “a theology of Japan.” It also contains a response to “a theology of Japan” from the West by Dr. Alan Suggate.

Tomoaki Fukai, Christoph Schwöbel,
Alistair McGrath, Yoshiaki Matsutani, et al.

Protestantism and Democracy

A Theology of Japan: Vol. 5

B 5 変形判 119 頁 本体 2500 円 + 税
978-4-915832-85-7 C3316 (2009)

This fifth volume contains selected essays from two conferences that Seigakuin University General Research Institute hosted in 2008, “Rethinking the Tradition of Liberal Democracy since World War II” and “Trinitarianism: Going Beyond Criticism Monotheism and Radical Pluralism.”

Atsuyoshi Fujiwara, Brian Byrd, eds.

Post-disaster Theology from Japan:

**How Can We Start Again? Centurial
Vision for Post-disaster Japan**

A Theology of Japan: Vol. 6

B 5 変形判 128 頁 本体 2500 円 + 税
978-4-907113-00-1 C3316 (2013)

This volume presents for a wider audience the voices of theologians and church leaders who gathered in Tokyo to consider “How Can We Start Again? Centurial Vision for Post-disaster Japan” one year after Japan’s March 2011 disaster at the First Great East Japan Earthquake International Theological Symposium.

Atsuyoshi Fujiwara, Brian Byrd, eds.

The Church Embracing the Sufferers, Moving Forward:

**Centurial Vision for Post-disaster Japan:
Ecumenical Voices**

A Theology of Japan: Vol. 7

B 5 変形判 134 頁 本体 2500 円 + 税
978-4-907113-09-4 C3316 (2014)

The Church Embracing the Sufferers, Moving Forward continues the task of *A Theology of Japan: Vol. 6*. Following the keynote address by Fuller Seminary President Richard Mouw, voices from Japan reflect on and relate the experience of the church as it has dealt with the aftermath of the disaster and sought to take positive steps forward.

Yoshibumi Takahashi ed.

Reinhold Niebuhr, Christian Realism, and Social Ethics

A Theology of Japan: Vol. 8

B 5 変形判 114 頁 本体 2500 円 + 税
978-4-907113-12-4 C3316 (2014)

This book includes the keynote speeches by professors Robin W. Lovin and Sung Bihn Yim with responses by Japanese scholars at the International Symposium, “Reinhold Niebuhr: His Religious, Social, and Political Thought” (June, 2013), and other lectures delivered by professor Lovin at International Christian University, Tokyo Union Theological Seminary, and Seigakuin University.

Atsuyoshi Fujiwara, Brian Byrd, eds.

Raising Leaders through Sufferings beyond Walls:

Centurial Vision for Post-disaster Japan

A Theology of Japan: Vol. 9

B 5 変形判 127 頁 本体 2500 円 + 税
978-4-907113-16-2 C3316 (2016)

Raising Leaders through Sufferings beyond Walls reports on the Third Great East Japan Earthquake International Theological Symposium. It features addresses by Fuller Seminary Professor Juan Martínez and by David Boan and George Kalantzis of Wheaton University, along with reflections from leaders of Catholic, mainline, and evangelical churches in Japan. The book also discusses the Christian Forum for Reconciliation in Northeast Asia, held in Nagasaki in 2015.

Brian Byrd, Mitsuharu Akudo, eds.

**Japanese and Korean
Theologians in Dialogue**

A Theology of Japan: Vol. 10

B 5 変形判 156 頁 本体 3000 円 + 税
978-4-909022-79-0 C3316 (2018)

Japanese and Korean Theologians in Dialogue contains the lectures of Seigakuin University (Japan) and Presbyterian University and Theological Seminary (Korea) joint conferences: Part I, Establishing the Dignity of Life (2014); Part II, Forming a Theology of Confession, Forgiveness, and Reconciliation (2016); and Part III, Essays on Spiritual Discourse, the Sanctity of Life, and Japan-Korea Reconciliation.

聖学院ゼネラルサービス出版 (SGS)

聖学院キリスト教センター 編 聖学院の精神と歴史

A 5判 95頁 本体850円+税
978-4-915826-01-6 C0016 (2013)

「建学の精神」である「神を仰ぎ、人に仕う」の由来と意味、1893年聖学院神学校の設立から始まった聖学院の諸学校の歴史、聖学院の教育を確立するために尽力してこられた「聖学院の人々」をコンパクトに紹介する。

90+110記念伝道・研究・刊行委員会 編 聖学院教育の源流 復刻版

A 5判 96頁 本体648円+税
978-4-915826-06-1 C0016 (2017)

聖学院神学校初代校長 H.H. ガイ博士、女子聖学院初代院長 B.F. クローソン、聖学院中学校初代校長石川角次郎、C.E. ガルス、A. マクリン、平井康吉、小田信人、畑中岩雄、富永正、秋山操、平塚益徳、石川清、小花綾子など、13名の文章15編を収録する。

J・M・トラウト 著 バーサ・F・クローソン

四六判 204頁 本体971円+税
978-4-915826-05-4 C0016 (1993)

女子聖学院の創設者バーサ・F. クローソンの伝記。生い立ちから16歳の時の両親の急死、暖かい周囲の人々との交際と教師生活、宣教師への召命。日本での伝道と突然の女子聖書学校創設要請。開校そして校長としての仕事…。宣教師の記録としても興味深い。

阿久戸光晴 著 新しき生

四六判 183頁 本体2200円+税
978-4-915826-08-5 C0016 (1995)

日々新しくよみがえる生を覚えよ…。「新しき生」、「主すでに世に勝りてり」、「大いなる喜び」、「我ら立ち直りしとき」、「律法の成就」の5部からなる著者の米国アトランタ在任中になされた説教20編を収録。

嶋田順好 著 愛の極みの中で

四六判 290頁 本体1942円+税
978-4-915826-10-8 C0016 (1996)

収められている説教は14編。1部「主の降誕」、2部「主の復活」、3部「主のまなざし」。降誕祭、復活祭の説教に続く3部は、贖罪の主イエスの愛のまなざしを語るものと言える。神学的にも明確な構造を持っている書物の構成であるし説教の構成でもある。

鈴木健一 著 おとなに育つ・育てるⅡ 十戒の時代

四六判 296頁 本体2000円+税
978-4-915826-13-9 C0016 (1999)

世の中がどう変わろうとも、語らなければならない不変の戒めがある…万引き、性非行、自殺・殺人など子どもに顕れた現代社会の問題点に、盗むなかれ、姦淫するなかれ、殺すなかれという十戒の意味と思想を子どもたちに教育現場や家庭で語ることを提示する。

内田秀子 著

女子聖学院の四季 <今・昔>

内田秀子写真集

A 5判 78頁 本体2000円+税

978-4-915826-15-3 C0072 (2000)

樹木も多く、一年中花の絶えない女子聖学院の校庭。愛情がなければ草花は育たないのよ、といつも生徒に語りかけ、30余年教師として理科教育と園芸指導を結びつけた著者自身の撮影による、1963年～2000年女子聖学院の花、樹、庭のオールカラー写真集。

阿部洋治 著

講解説教

コリント人への第二の手紙

四六判 445頁 本体3800円+税

978-4-915826-17-7 C0016 (2002)

コリント人への第二の手紙は、「涙の書簡」と名づけられるように、パウロが直面した困難な戦いの中で、福音を語り続けた書簡であるが、本書は、その書簡から現代に向けたメッセージを説いた講解説教集である。

阿部洋治 著

マルコ福音書のイエス像Ⅰ

四六判 349頁 本体4300円+税

978-4-915826-18-4 C3016 (2002)

「伝記」ではない「福音書」という文学類型をつくりだしたマルコ福音書は、何を伝えようとしているのか。本書はこれまでの歴史的批判的研究、編集史研究、文学批評的アプローチなどマルコ福音書研究を概括しながら独自の文体、構造に着目し意味を明らかにする。

川島隆一 著

激情の神

教会暦による講解説教

A 5判 703頁 本体3000円+税

978-4-915826-22-1 C0016 (2006)

10年にわたり秋田栖山教会において教会暦にそってなされた講解説教61篇を収録した説教集。「キリストの十字架に常に新しく、繰り返し聞き続けた結果である」と記すように、ひたすら聖書の言葉を聴き続けてきた著者の教会形成の歩みが浮かび上がる。

濱田増男 著

倉松 功 編

ある信徒の信仰と神学

四六判 195頁 本体2000円+税

978-4-915826-23-8 C0016 (2013)

詩人濱田増男の思索をまとめたものである。彼の信仰は、交わりの宗教ともいえるべき性格と構造を持っており、本書のいたる所で主張されている。彼はキリスト教の信仰を、キリストによる今ここでの他者との交わりという、観念性をこえた実存的なものとしていた。

品薄書目一覧

医療と福祉における市場の役割と限界 郡司篤晃 編著 2004
イングランド・ピューリタニズム研究 松谷好明 著 2007
オフィス業務改革 後藤兼一 著 1999
思いやりの主イエスとともに 澁谷浩 著 2001
キリスト教学校の形成とチャレンジ 学校伝道研究会 編 2006
キリスト教学校の再建 学校伝道研究会 編 1997
近代日本キリスト者の信仰と倫理 鷗沼裕子 著 2000
クロムウェルとイギリス革命 田村秀夫 編著 1999
国家と法の比較研究 酒井文夫 著 1994
人生の危機における人間像 平山正実 著 2006
地域に求められる人口減少対策 平修久 著 2005
とはずがたりの表現と心 標宮子 著 2008
光の子と闇の子 R・ニーバー 著 武田清子 訳 1994
福祉の役わり・福祉のころ 阿部志郎 著 2008
ユルゲン・モルトマン研究 組織神学研究会 編 1998

品切書目一覧

- 美しいメロディーによるやさしいオルガン曲集 櫻谷真理子 編 2008
神を仰ぎ、人に仕う——キリスト教概論 21世紀版（第3版） 聖学院キリスト教センター 編 2011
希望の芽はある 枝野幸男 著 2012
社会改革への道五十年 金井信一郎 著 1994
主の祈り 大木英夫 著 1995
神道学者・折口信夫とキリスト教 濱田辰雄 著 1995
政治神学再考 深井智朗 著 2000
日本プロテスタント史の諸相 高橋昌郎 編著 1995
歴史としての啓示 W・パネンベルク 編著 1994
Inactivity, Health and Aging Atsuaki Gunji ed. 2001
A Theology of Japan: Origins and Task in the Age of Globalization Hideo Ohki, Atsuyoshi Fujiwara,
David Oki Ahearn, Tomoaki Fukai, Woon-Hae Nag 2005

[聖学院ゼネラルサービス出版]

- 愛のうちを歩む ウィリアム・G・クレーラ 著 1991
アトランタの風が聴こえる 矢部美子 著 2000
おとなに育つ・育てる 鈴木健一 著 1990
近代デモクラシー思想の根源 阿久戸光晴 著 1998
自由への訓練 小倉義明 著 1994
諸君は孫弟子 金井信一郎 著 1993
満ち溢れる器 林田秀彦 著 1996
恵みを数える声 小倉義明 編 1996
-

書名索引

あ行

愛に生きた証人たち 7
 愛に基づくスピリチュアルケア 31
 愛のうちを歩む 44
 愛の極みの中で 41
 アジアの問いかけて日本 17
 与えあうかわりをめざして 26
 新しき生 41
 アトランタの風が聴こえる 44
 アメリカ史のアイロニー 10
 アメリカにおける神の国 33
 ある信徒の信仰と神学 42
 安全という幻想 21
 生きがいを感じて生きる 27
 イギリス革命とアルミニウス主義 15
 イギリス・デモクラシーの擁護者 A・D・リンゼイ 2
 「いま、ここで」のかかわり 27
 癒やしを求める魂の渇き 30
 医療と福祉における市場の役割と限界 32
 イングランド国民のための第一弁護論および第二弁護論 16
 イングランド・ピューリタニズム研究 16
 ヴェーバー・トレルチ・イエリネック 4
 「宇魂和才」の説 18
 美しいメロディーによるやさしいオルガン曲集 23
 エラスムスとルター 32
 永遠の言葉 7
 オックスフォード・チャペル講話 35
 おとなに育つ・育てる 44
 おとなに育つ・育てる II 41
 オフィス業務改革 18
 思いやりの主イエスとともに 6
 オリヴァー・クロムウェル 36

か行

神を仰ぎ、人に仕う 6
 神を仰ぎ、人に仕う・改訂 21 世紀版 7
 カルヴァンとカルヴァン主義者たち 15
 川口鑄物の技術と伝承 18
 北朝鮮問題をどう解くか 19
 希望の芽はある 20
 希望を支える臨床生死観 29
 キリスト教学校の形成とチャレンジ 22
 キリスト教学校の再建 22
 キリスト教社会倫理 8

キリスト教諸教会とデモクラシー 35
 キリスト教信仰概説 6
 キリスト教大学の新しい挑戦 22
 近代人の宿命とキリスト教 10
 近代世界とキリスト教 9
 近代デモクラシー思想の根源 44
 近代日本キリスト者の信仰と倫理 14
 近代日本キリスト者との対話 14
 近代日本精神史の位相 34
 クロムウェルとイギリス革命 15
 激情の神 42
 現代社会におけるポスト合理性の問題 4
 現代に生きる教会の使命 12
 公共神学と経済 10
 公共政策と人間 24
 国家と法の比較研究 17
 コリント人への第二の手紙 42

さ行

私学としてのキリスト教大学 22
 シカゴ 19
 死別の悲しみから立ち直るために 28
 死別の悲しみに寄り添う 28
 死別の悲しみを学ぶ 28
 社会改革への道五十年 17
 宗教の未来 3
 自由主義に先立つ自由 3
 自由と家族の法的基礎 4
 自由と結社の思想 2
 自由に生きる愛を生きる 7
 自由への訓練 44
 主の折り 36
 諸君は孫弟子 44
 女子聖学院の四季 <今・昔> 42
 史料による日本キリスト教史 13
 神学と文学 12
 神道学者・折口信夫とキリスト教 13
 人生の危機における人間像 25
 スピリチュアルケア研究 31
 スピリチュアルな存在として 31
 スピリチュアルケアの心 31
 スピリチュアルケアの実現に向けて 30
 スピリチュアルコミュニケーション 30
 スピリチュアルペインに向き合う 30

聖学院教育の源流 41
 聖学院の精神と歴史 41
 正義 2
 政治神学再考 10
 世界社会の宗教的コミュニケーション 5
 専制と偏狭を永遠に除去するために 37
 ソーシャルワークを支える宗教の視点 24

た行

多層的ヨーロッパ統合と法 20
 単税太郎 C・E・ガルスト 18
 地域に求められる人口減少対策 33
 チャールズ・E・ガルスト 19
 ティリッヒと逆説的合一の系譜 34
 デジタルの際 20
 デモクラシーにおける討論の生誕 15
 とことんつきあう関係力をもとに 26
 とはすがたりの表現と心 33
 トレルチとドイツ文化プロテスタンティズム 3

な行

ニーバーとその時代 11
 ニーバーとリベラリズム 33
 ニコラウス・クザーヌス 3
 日本社会政策の源流 17
 日本の将来とキリスト教 13
 日本プロテスタント史の諸相 13
 人間としての尊厳を守るために 20
 人間の運命 5
 人間の本性 5
 人間福祉スーパービジョン 24

は行

バーサ・F・クロウソン 41
 パウル・ティリッヒ研究 9
 パウル・ティリッヒ研究 2 9
 ハルナックとトレルチ 4
 光の子と闇の子 2
 被災者と支援者のための心のケア 25
 ビューリタン 11
 福祉の役わり・福祉のこころ 26
 「文明日本」と「市民的主体」 32
 ベイズの誓い 21
 ヘルスプロモーション 23

ヘンリ・ナウエンに学ぶ 25

ま行

マルコ福音書のイエス像 I 42
 魔女は真昼に夢を織る 23
 満ち溢れる器 44
 みんなで参加し共につくる 27
 恵みを数える声 44

や行

ユルゲン・モルトマン研究 8
 「ヨハネの手紙一」の研究 6

ら行

ラインホルド・ニーバーの歴史神学 8
 臨床現場からみた生と死の諸相 28
 ルター神学の再検討 9
 歴史としての啓示 8
 歴史と神学 上巻 11
 歴史と神学 下巻 11
 歴史と探求 32

わ行

わたしはデモクラシーを信じる 35

[英文版]

“A Theology of Japan” and
 the Theology of Hideo Ohki 38
 A Theology of Japan: Origins and
 Task in the Age of Globalization 38
 Church and State in Japan
 Since World War II 38
 History of Japan and Christianity 38
 Inactivity, Health and Aging 19
 Japanese and Korean Theologians in Dialogue 40
 Post-disaster Theology from Japan 39
 Protestantism and Democracy 39
 Raising Leaders through
 Sufferings beyond Walls 39
 Reinhold Niebuhr,
 Christian Realism, and Social Ethics 39
 The Church Embracing
 the Sufferers, Moving Forward 39

著訳編者名索引

あ行

相澤 一 3
 阿久戸光晴 11, 37, 40, 41, 44
 アダムス, J. L. 2
 阿部志郎 26
 阿部洋治 42
 新井 明 16
 荒木忠義 8
 石川到覚 27
 岩尾 貢 26
 ウィッテ, J. 4
 内田秀子 42
 鶴沼裕子 13, 14
 梅津順一 3, 32
 エイハン, D. O. 38
 枝野幸男 20
 大木英夫 3, 4, 8, 10, 11, 12, 18, 36, 38
 大木雅夫 20
 大澤 麦 15, 35
 大住雄一 8
 小倉義明 44
 小田川興 19
 小貫山信夫 19

か行

柏木 昭 24, 27
 学校伝道研究会 22
 金井信一郎 17, 44
 金子晴勇 7, 10, 32
 ガルスト, L. D. 19
 河島茂生 20
 川島隆一 42
 康 仁徳 19
 岸川洋治 27
 菊地 順 7, 34
 90 + 110 記念伝道・研究・刊行委員会 41
 工藤英一 18
 窪寺俊之 29, 30, 31
 グラーフ, F. W. 3, 4

倉松 功 6, 7, 9, 11, 22, 42
 クレーラ, ウィリアム, G. 44
 郡司篤晃 19, 21, 24, 32
 古賀敬太 35
 後藤兼一 18
 近藤勝彦 8, 11, 12, 22
 近藤正臣 4

さ行

齊藤理砂子 23
 酒井文夫 17
 櫻谷真理子 23
 佐野正子 35
 柴田史子 2, 33
 澁谷 浩 6, 15, 36
 嶋田順好 41
 標 宮子 33
 シュヴェーベル, C. 39
 スキナー, Q. 3
 鈴木健一 41
 スタックハウス, M. L. 10
 隅谷三喜男 17
 聖学院キリスト教センター 6, 7, 41
 聖学院大学総合研究所
 カウンセリング研究センター 25
 セルス, J. 20
 組織神学研究会 8
 組織神学研究所 9

た行

平 修久 33
 高橋昌郎 13
 高橋義文 4, 5, 8, 11, 24, 33, 39
 武田清子 2
 田村秀夫 15
 津村春英 6
 テイリッヒ, P. 3
 寺脇丕信 2
 トラウト, J. M. 41

な行

永岡 薫 2, 35

中村民雄 20

中村磐男 24

ナグネ（洛 雲海） 38

ニーバー, ラインホルド 2, 5, 10, 24

ニーバー, H. リチャード 33

西川淑子 24

西谷幸介 8

野呂有子 16

は行

バード, B. 39, 40

長谷川匡俊 26

パネンベルク, W. 8, 9, 12

濱野一郎 26

濱田辰雄 13

濱田増男 42

林田秀彦 44

土方 透 4, 5

日野原重明 27

平山正実 7, 25, 26, 28

深井智朗 3, 4, 8, 9, 10, 38, 39

藤井哲郎 35

藤原淳賀 38, 39

ブラウン, C. C. 11

古屋安雄 11, 13, 38

ブルンナー, E. 2

ヘルム, P. 15

朴 憲郁 8

保谷六郎 17

堀 肇 25

ま行

マクグラス, A. 39

マクジルトン, C. E. 20

松谷好明 15, 16, 39

松原 望 21

松本祐子 23

三田村佳子 18

ミルトン, J. 16

村松 晋 34

メリアム, C. E. 19

や行

安酸敏真 3, 32

矢部美子 44

柳田洋夫 5

山形和美 12

山田園子 15

山本俊樹 35

ら行

ライト, T. R. 12

リンゼイ, A. D. 35

ルグラン, J. 24

わ行

和田宗春 19

和田雅史 23

渡邊守道 3

ご注文方法

◇お近くの書店へ

全国いずれの書店でもお取り寄せができます。

◇インターネット上の書店から

Amazon、e-hon などインターネット上の書店から購入いただけます。

◇直接販売

聖学院大学出版会へ直接お電話ください。

048-725-9801（直通）

- ・お名前、ご住所、電話番号をうかがいます。
- ・ご注文を確認後、総額（税込価格に送料、梱包料（300円）を加えた金額）と、振込先をお知らせします。
- ・発送は入金確認後となります。

〔ゆうちょ銀行口座記号番号：00180-3-567019〕

※目録の価格は、2019年3月現在のものです。改訂・重版等の理由により、価格を改定することがありますので、あらかじめご了承ください。

※聖学院ゼネラル・サービス出版（SGS）の書籍も聖学院大学出版会の取り扱いとなり、上記の方法でご購入いただけます。

聖学院大学出版会

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

TEL：048-725-9801 FAX：048-725-0324

[E-mail] press@seigakuin-univ.ac.jp

[Home Page] <https://www.seigapress.jp/>



聖学院大学出版会

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号
Tel. 048-725-9801 Fax. 048-725-0324
[E-mail] press@seigakuin-univ.ac.jp
[Home Page] <https://www.seigpress.jp/>